

SEGA SAMMY GROUP

CSR REPORT 2017



CONTENTS

- 1 編集方針・報告対象範囲・会社概要
- 2 グループ概要・パフォーマンスの推移(連結)
- 3 事業概要
- 5 TOP MESSAGE
セガサミーホールディングス株式会社
代表取締役会長CEO 里見 治
代表取締役社長COO 里見 治紀
- 7 **特集1** ALL.Netが広げる！
感動体験ネットワーク
- 9 **特集2** 環境配慮を推進する
サミーの遊技機リユースシステム
- 11 セガサミーグループの復興支援活動
- 12 マネジメント
- 21 お客さまとともに
- 30 お取引先とともに
- 34 株主・投資家とともに
- 36 社員とともに
- 42 社会とともに【環境】
- 46 社会とともに【社会貢献】
- 50 第三者意見

編集方針

セガサミーグループのCSR活動の取り組みを様々なステークホルダーの皆さまにご報告し、コミュニケーションを図りながら活動と情報開示を充実させていくことを目的として発行しています。セガサミーグループCSR憲章に定めた5つのステークホルダー（「お客さま」「お取引先」「株主・投資家」「社員」「社会（環境と社会貢献）」）にかかわる活動報告として構成しています。

【参考にしたガイドライン】

GRI「サステナビリティ・レポート・ガイドライン第4版(G4)」
ISO26000(社会的責任に関する手引き)

【発行時期】

2017年9月
(前回発行：2016年9月、次回発行予定：2018年9月)

報告対象範囲

【対象期間】

2016年度(2016年4月1日～2017年3月31日)
一部対象期間外の活動も時期を明示して掲載しています。

【対象組織】

セガサミーホールディングス(株)、(株)セガホールディングス(主要事業グループ会社を含む)、サミー(株)

【記述している組織名の定義と略称】 (各セグメント)

E：エンタテインメントコンテンツ事業、遊：サミー(株)・遊技機事業、グループ：セガサミーホールディングス(株)・エンタテインメントコンテンツ事業・遊技機事業・リゾート事業

【各セグメントの主要企業】

SSHD：セガサミーホールディングス(株)、SHD：(株)セガホールディングス、SAMMY：サミー(株)、TOYS：(株)セガトイズ、TMS：(株)トムス・エンタテインメント、SNW：(株)サミーネットワークス、PSR：フェニックスリゾート(株)、SE：(株)セガ エンタテインメント、SIC：(株)セガ・インタラクティブ、SGC：(株)セガゲームス、ELEC：タイヨーエレクトリック(株)、SLS：(株)セガ・ロジスティクスサービス、DL：(株)ダーツライブ、MARZA：マーザ・アニメーションプラネット(株)、JMS：日本マルチメディアサービス(株)、OP：(株)オアシスパーク、銀座：(株)銀座、ロデオ：(株)ロデオ、SSC：セガサミークリエーション(株)、BTF：(株)バタフライ、PSS：(株)パラダイスセガサミー、SSGE：セガサミーゴルフエンタテインメント(株)

・一部、その他のグループ会社も対象組織に含まれる活動があります。

※ 日本マルチメディアサービス(株)は、2017年10月1日付でジェイエムエス・ユナイテッド(株)に社名が変更となります。

会社概要



SEGA-SAMMY
HOLDINGS

社名 セガサミーホールディングス株式会社
本社所在地 〒105-0021
東京都港区東新橋一丁目9番2号
汐留住友ビル21階
設立 2004年10月1日
資本金 29,953百万円

代表取締役会長CEO 里見 治
代表取締役社長COO 里見 治紀 ※ 2017年4月1日就任
事業内容 総合エンタテインメント企業グループの
持株会社として、グループの経営管理
およびそれに附随する業務
社員数 135名

2017年3月31日現在

グループ概要

セガサミーグループは、幅広い領域で事業展開する総合エンタテインメント企業グループとして、大人から子どもまであらゆる年代のお客さま、国内、海外のお客さまに感動体験を創造し続けています。

2016年度実績

遊技機事業



主な事業内容

パチスロ遊技機およびパチンコ遊技機の開発・製造・販売

関連グループ企業

SAMMY、銀座、ELEC、ロデオ、SNW、JMS、音遊（その他10社）

エンタテインメントコンテンツ事業



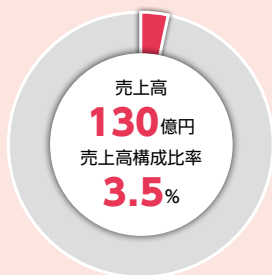
主な事業内容

デジタルゲームを中核にパッケージゲーム、アミューズメント機器における開発・販売、アミューズメント施設の開発・運営やアニメーション映画の企画・制作・販売および玩具等の開発・製造・販売

関連グループ企業

SHD、アトラス、SIC、SE、SGC、TOYS、SLS、SSC、DL、TMS、MARZAなど（その他19社、海外48社）

リゾート事業



主な事業内容

統合型リゾート（IR）施設や複合リゾート施設の運営

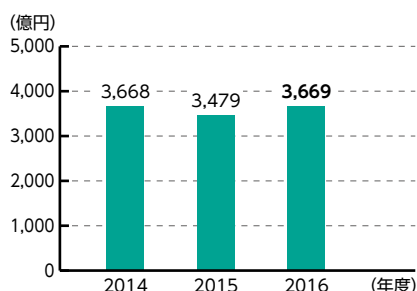
関連グループ企業

SSGE、PSR（海外2社）

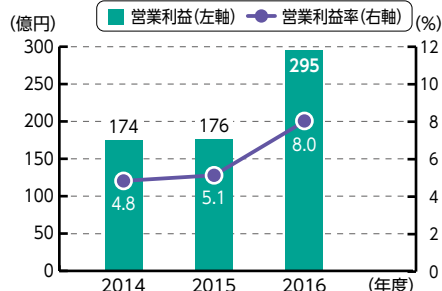
※ 内部調整売上高が含まれています。

パフォーマンスの推移（連結）

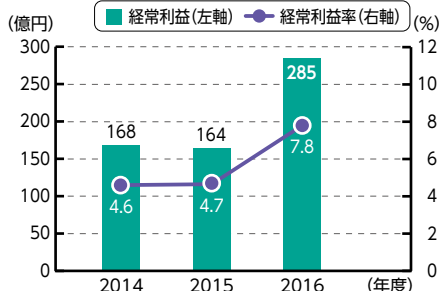
● 売上高



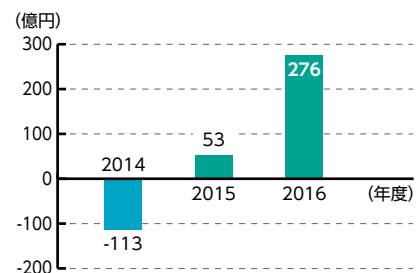
● 営業利益／営業利益率



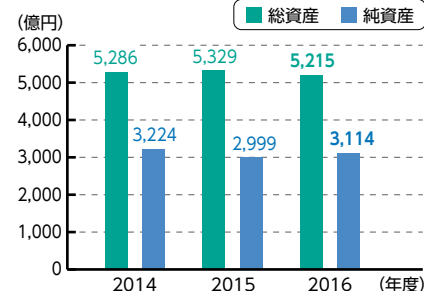
● 経常利益／経常利益率



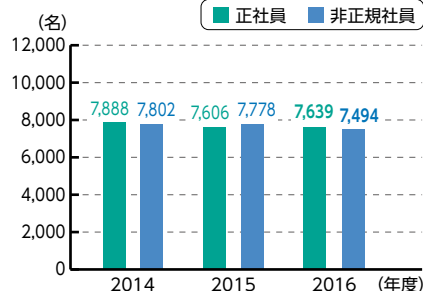
● 親会社株主に帰属する当期純利益



● 総資産／純資産



● 社員数



※ 2015年度より、当社の一部の連結子会社において、製商品販売等の収益認識基準の変更及びデジタルゲーム分野の収益表示の変更を行っており、2014年度の関連する主要な経営指標等について、遡及処理の内容を反映させた数値を記載しています。

01 遊技機事業

遊技機事業は、パチンコ遊技機事業とパチスロ遊技機事業で構成されています。サミーを中心にマルチブランドを展開し、幅広いファンのニーズに応える製品を供給しています。パチンコ遊技機ではさらなる開発力の強化により、市場におけるプレゼンスの向上を目指し、パチスロ遊技機では市場の活性化に寄与する斬新な遊技性を備えた機械の開発・供給に取り組んでいます。

主なグループ会社

SAMMY、銀座、ELEC、ロデオ、SNW、JMS など



ぱちんこCR
蒼天の拳 天帰
©原哲夫・武論尊/NSP
2001, 版權許諾証 YDM-406
©Sammy



パチスロ獣王
王者の覚醒
©Sammy

02 エンタテインメントコンテンツ事業

デジタルゲームを中核にアミューズメント機器事業、コンシューマ事業、アミューズメント施設事業、玩具、映像事業まで幅広くエンタテインメントを提供しています。デジタルゲーム分野は成長領域と位置づけ、さらなる成長を図っています。高いシェアを誇るアミューズメント機器・施設においても、マーケットニーズに合致した商品ラインナップ、店舗ポートフォリオの強化を推進していきます。

主なグループ会社

SIC、SE、SSC、SGC、TOYS、SHD、SLS、TMS、DL、BTF、MARZA など

※ 略称は、P.1 参照

01 パチスロ



02 テマパーク



オアシスパーク

01 パチンコ



デジハネCRAくだもの畑

02 アニメーション



それいけ! アンパンマン
ブルブルの宝探し大冒険!



名探偵コナン
から紅の恋歌(ラブレター)

02 家庭用ゲーム



龍が如く6 命の詩。



Football
Manager 2017

02

02 ゲームセンター



セガ秋葉原1号館

02 アミューズメント機器



01 デジタルコンテンツ



モバ7 アラジンA



777NEXT
パチスロ北斗の拳 強敵



ぶよぶよ!!クエスト
©SEGA



おみせいっぱい!
ピカピカ光る!
アンパンマンフードコート



ぶにジェル ゆめぶに
アクセDX
©SEGA TOYS

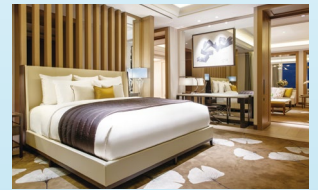
03 リゾート事業

宮崎県にある日本有数の複合リゾート施設であるフェニックス・シーガイア・リゾートのグループ化をはじめ、2017年に開業した韓国初の統合型リゾート(IR)施設「パラダイスシティ」のプロジェクトを通じて、ホテル、エンタテインメント施設、商業施設、カジノオペレーションなどの開発、運営におけるあらゆるノウハウを蓄積しています。また、グループが保有する最先端技術や豊富な経験を活用し、セガサミーグループらしいエンタテインメント性溢れるリゾートの開発・運営に取り組んでいます。

主なグループ会社
SSGE、PSR など



フェニックスカントリークラブ



パラダイスシティ

世界中の人びとに感動体験を届ける セガサミーグループの 製品・サービス

02 家庭用ゲーム



03 ゴルフ場



03 リゾート施設



フェニックス・シーガイア・リゾート

韓国初の統合型リゾート施設が誕生!

2017年4月、韓国・仁川空港のすぐそばに誕生した統合型リゾート(IR)「パラダイスシティ」。カジノやホテル、レストラン、レジャー施設などを備え、そのすべてに極上の空間が広がります。



韓国

パラダイスシティ

02 アミューズメント機器



DARTSLIVE2



セガサミーホールディングス株式会社 代表取締役会長CEO

里見 治

エンタテインメントを通じて社会に潤いを

セガサミーグループは、「感動体験を創造し続ける ～社会をもっと元気に、カラフルに。～」というグループミッションを掲げています。50を超えるグループ会社が共通して抱くのは、本業であるエンタテインメントを通じて感動体験を提供することで、社会に潤いを与える企業でありたいという思いです。良質なエンタテインメントは、成熟した社会にとって必要不可欠なものであり、その創造は私たちの喜びであるとともに存在意義となっています。

今、エンタテインメント業界は過渡期を迎えています。高度な情報社会の進展は遊びの多様化をもたらし、業界の垣根を超えた競争を誘発するとともに、その変化のスピードはかつてないほどに急激です。こうした環境の中、セガサミーがこれまで以上に世の中で必要とされる価値を提供するためには、変化を恐れず絶え間ない改革を進める「革新者」であり続ける必要があります。私たちはその実現のために、遊技機事業、エンタテインメントコンテンツ事業、リゾート事業を中核事業として、それぞれにおける成長領域を見極めつつ、シナジーを生み出すためのグループ構造改革を進めてきました。

世界に向けて感動体験を創造し続ける、 総合エンタテインメント企業であるために。

価値創造の源泉は「人財」にある

2016年度、エンタテインメントコンテンツ事業はすべての部門を黒字化するなど、構造改革の成果が表れ始めました。遊技機事業は、市場の縮小や厳しい規制環境下にありますが、開発プロセスの見直しや同業他社との連携強化など、業界全体での生き残りをかけた取り組みを始めています。リゾート事業では、韓国パラダイスグループとの共同プロジェクトとして、2017年4月20日に韓国初の統合型リゾート(IR)「パラダイスシティ」を仁川に開業しました。IR事業は今後、私たちが総合エンタテインメント企業としての可能性を追求する上で非常に重要であると考えています。

セガサミーグループは、総合エンタテインメント企業として、これまで数々のエンタテインメントバリューを生み出してきましたが、その源泉は創造性とチャレンジ精神に満ちた人財であると考えています。近年、グループとして力を入れている「働き方改革」は、人財をグループの持続的な発展を支える最も重要な経営資源と捉えた上で、その価値を最大化させようという視点に立つて行うものです。2018年度にはグループオフィスを集約し、グループ間の人財交流を加速化することで、より大きな価値を生み出す源泉となることを期待しています。さらにはコーポレート・ガバナンスやコンプライアンス体制など、健全な企業経営の基盤についても強固にする一方、エンタテインメント企業らしい自由で創造性に溢れる企業風土づくりに尽力していきます。

健全な経営と新しい価値創造が私たちのCSR

エンタテインメントには感動体験を生み出す力があり、その可能性は無限に広がっています。ファンの皆さまに喜んでもらえるゲームや遊技機はもちろん、時代を超えて愛されるコンテンツや統合型リゾートによる非日常の体験、あるいは自然災害の被災地に向けて継続的に笑顔と元気をお届けする支援活動に至るまで、そのすべてが総合エンタテインメント企業だからこそ生み出せる価値であり、その価値を創造し続けることが私たちのCSRであると考えています。セガサミーグループは国連グローバル・コンパクトに署名し、国際社会の持続的な発展のために企業としての責任と役割を果たしていくことを表明しています。これは、私たちが未来永劫にわたり、世界に向けて良質なエンタテインメントを発信する存在であり続けようという決意の表れでもあります。私たちは世界中の人々に感動体験を提供し続けることで、社員一人ひとりが己の仕事に誇りを抱き、ひいては社会の持続的な発展に役立っていると実感できるような企業グループであり続けたいと思います。

すべての社員が力を発揮できる環境を整え、感動体験を創造し続けていきます。

目指す未来を明確にすべく ミッションピラミッドを構築

2017年4月1日付で、セガサミーホールディングスの代表取締役社長COOに就任しました。グループ全体を統括する重要な役目に就くにあたっては、「社員自身が誇りに思える」「家族や友人に自慢できる」そんな会社を作っていきたいとの思いを改めて強くしました。この度、セガサミーグループは“感動体験を創造し続ける”というグループとしてのミッション(=存在意義)を掲げました。2017年5月には、2020年3月期にゴールを定めた「Road to 2020」を発表し、総合エンタテインメントのリーディングカンパニーとしての決意を、具体的な目標とともに新たに設定しております。

2018年度中には、セガサミーグループは首都圏に点在するグループ各社の拠点を集約し、文字通りグループの力を結集してさらなる成長を目指していくことになります。これまでセガ、サミーをはじめとしたグループ各社において事業の指針となるミッションピラミッド*を設定しており、現在グループ全体での導入を進めております。ミッションピラミッドとは、私たちの『Mission』(=存在意義)、『Vision』(=ありたい姿)、そして『Goal』(=目標)、さらにはそれらを実現するためのより具体的な戦略、組織、戦術を定めたフレームワークのことで、我々が目指すべき方向性について個々の社員が明確に理解し、実行できるようにするためのものです。

“感動体験の創造”の旗印のもと、目指すべき未来を明確に指し示し、すべての社員の思いを束ねることが、私のCOOとしての最初の重要な仕事になると考えています。

クリエイティビティの醸成につながる 働き方改革を

エンタテインメント産業というクリエイティビティが何より試される仕事においては、仕事以外の豊かな時間の中で良質なインプットを得ることこそ、次のアイデアを生み出し、クリエイティビティの醸成につながります。私たちが目指す「働き方改革」とは、社員自身が改善意識を持ち、働き方の根本を見直すことがスタート地点となります。一方で私たち経営側としても、効率の良い働き方のできる社員を評価できる仕組みを早急につくり上げたいと考えています。

その手始めとなるのがグループ横断的に設置した「働き方相談課」です。改善策を現場とともに考えながらノウハウを蓄積し、支援していくことが目的です。多様な人財、多様なものの考え方をする人たちが働きやすい環境づくりを進め、「よく働き、よく遊び、よく学び、そして仕事もプライベートも楽しもう！」という考えのもと、企業と社員がともに成



セガサミーホールディングス株式会社 代表取締役社長COO

里見 治紀

長し続ける、効率的で柔軟な働き方を実現していきます。

新オフィスへの移転を機に様々な社員研修や自己啓発機会となる場をつくり、優秀な人財を育成できる環境を整え、グループの構造改革のさらなる進展を図っていきます。

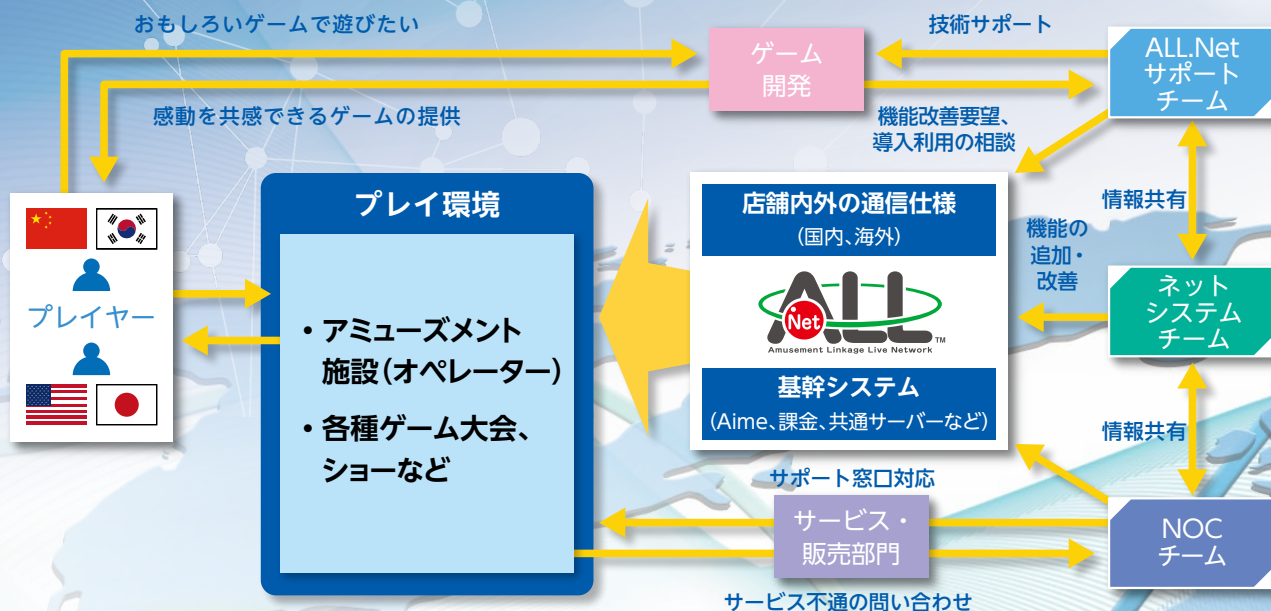
これからも感動の期待値を超えていくために

2016年度、セガサミーグループは全体で増収、増益を実現し、特にエンタテインメントコンテンツ事業では全事業セグメント、全地域での黒字化を達成するなど構造改革の成果を示すことができました。これは私たちが創造し、提供してきた“感動体験”が、社会に受け入れられたことにほかならないと考えています。“感動体験”とは、事前の期待値を超えることで生まれるものであり、この“感動体験”を創造し続けることが我々の存在価値となるのです。新たなミッションピラミッドのもとグループの力を結集し、一人ひとりが最高のパフォーマンスを発揮できる環境を整えることで、これからもファンの皆さまの期待の一步先をゆく“感動体験”を、創造し続けていきます。

*ミッションピラミッドについて、詳しくはP.12をご参照ください

ALL.Netは、全国10万台を超えるアミューズメント機器を通信回線で結び、オンラインでのプレイデータの保存、全国統一ランキングの展開、海外とのリアルタイム対戦といった、さまざまなサービスを可能にするネットワークサービスです。「ネットシステム」「NOC」「ALL.Netサポート」の3チームが連携しながらサービスの安定と改善、新たな付加価値の創出を推進し、感動体験のネットワークを広げています。

ALL.Netのサービス提供体制



頭文字DZero
©しげの秀一/講談社・2014新劇場版
「頭文字D」製作委員会 ©SEGA

ALL.Netが広げる!

常に最新の技術とアイデアを採り入れながら進化を重ねてきたセガのアーケードゲーム用ネットワークサービスALL.Net。アーケードゲームの楽しみ方を一変させた“感動体験ネットワーク”を支える、運用や開発の現場をご紹介します。

ユーザーの皆さまの声を糧に、これからも進化し続けます!



株式会社セガ・インタラクティブ
AMインフラ研究開発部
ネットワーク開発セクション
セクションマネージャー
本池 哲

ALL.Netの歴史は、アーケードゲームにおけるネット活用の進化の歴史そのものと言えます。2001年のサービス開始当初、通信速度は今よりずっと低速でしたが、ネットワークの高速・大容量化に伴って新たなサービスを次々と打ち出していったところ、ユーザーの皆さまに驚くほど自然に受け入れていただくことができました。我々としても皆さまの反応や応援を糧にしながら、ともに成長していったという思いがあります。

一方、加盟店舗と売上を分け合う課金システムの導入は、街のゲームセンターのALL.Net対応アミューズメント機器の導入へのハードルを下げ、その後のALL.Netの躍進の理由の一つになったと考えています。

これからもALL.Netは、ユーザーの皆さまの声を大切にしながら、さらなる「感動体験」を提供するために進化を続けていきます。

開発サポート

ALL.Netサポートチーム

より安定した高速通信のために

ALL.Netを活用するALL.Net基幹システムの通信仕様を技術的な情報としてまとめ、社内はもちろん共同推進パートナーやライセンサーと共有することでゲーム開発をサポートします。チームが提供する情報は、過去のトラブルや海外地域の通信品質の状況なども含んでおり、トラブルを未然に防ぐための様々なアイデアは、ALL.Net対応タイトルの安定した稼働の確保に役立っています。また、ゲームイベントの開催に向けて一時的にALL.Net環境を構築する作業も請け負っています。



三国志大戦4
©SEGA



セガ・インタラクティブ AMインフラ研究開発部 ネットワーク開発セクション

(後列左から)

古田 真覚(ALL.Netサポートチーム)

本池 哲(セクションマネージャー)

藤田 浩二郎(NOCチーム)

(前列左から)

高田 綾香(ALL.Netサポートチーム)

古海 智陽(ALL.Netサポートチーム)

藤部 修平(ネットシステムチーム)

仲野 祐哉(ネットシステムチーム)

感動体験ネットワーク



サーバー開発

ネットシステムチーム

ALL.Netの心臓部を担う

国内外の10万台を超えるアミューズメント機器を高速回線で結ぶALL.Net。その基幹システムとなるサーバアプリケーションの開発・構築を担当するのがネットシステムチームです。ユーザーがストレスを感じることなくゲームを楽しんでいただけるよう、ALL.Net対応アミューズメント機器から送られてくる膨大なデータを効率的に処理するシステムを継続的に開発しています。ALL.Netは共同推進パートナーやライセンサーにもALL.Net基幹システムを利用していただいております。基幹システムの安定稼働には責任をもって取り組んでいます。

ネットワーク監視

NOCチーム

トラブル時には迅速に対応

NOC (Network Operation Center) は、ALL.Netのネットワークの稼働状況や、ネットワークにつながるオンラインゲームの運用状況を365日監視し、異常があれば迅速に対応する役割を担っています。ALL.Net上の障害の情報はNOCに集約され、問題点が正確に把握された上で、すぐさま的確な指示が社内や社外の対応すべき部門に伝えられます。なお、障害は突発的で予測不能であるため、障害発生時の手順のマニュアル化をはじめ、いついかなる時でも迅速な対応ができるような体制を整えています。



艦これアーケード

©SEGA

©2017 DMM.com POWERCHORD STUDIO / C2 / KADOKAWA All Rights Reserved.

環境配慮を推進するサミー

遊技機業界では、遊技機を構成する部材の有効活用や廃棄物の抑制ではすでに独自のリユースシステムを構築しており、今後さらに部材促進していきます。



再度、
市場へ！

整備されたリユース部品を組み込み、新台として出荷

サミー川越工場では、新品と同等のクオリティを持つと認められたリユース部品・ユニットのみを製品の一部分として組み込んで製造し、新品と同様の出荷検査を経てホールさまに向けて出荷しています。

出荷

新台の組み立て作業

製造・出荷

川越工場

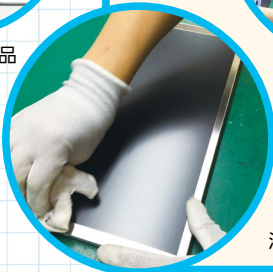
外部から
リユース部品を購入
することも！



リユース部品



整備・組立ライン



液晶パネルの整備・清掃

リユース部品を組み込み、半完成品のユニットに

リユース可能と判断された部品を清掃・整備し、他の部品と組み合わせて半完成品のユニットに仕上げます。さらに検品、動作チェックなどを経て、サミー川越工場に送られます。

整備・投入

整備取引先

Sammy



リユースでも新品同様の品質を保証

品質保証部では「ある部品をリユースにしたい」という依頼に対して、「市場に投入して問題がないか」の検証と判断を任されています。リユース可能な部品は細心の注意を払って選別・整備していますが、最終的に製品に組み込んでホールさまにお届けするからには、新品同様のレベルであることが大前提です。そのため品質保証部の仕事には、定期的にリユース整備取引先の現場に足を運び、該当部品がきちんと整備・検査されているかのチェックも欠かせません。我々が厳しく見ているからこそ、このリユースシステムが成り立っているのだと自負しています。今後は一連のサイクルを通じて得られる検証データを蓄積・分析していくことで、より信頼性の高いリユースシステムを構築したいと考えています。

設置・稼働

サミー株式会社 生産統括本部

製造・出荷

製造本部 品質保証部

整備・投入

品質管理グループ

細村直樹

の遊技機リユースシステム

など、循環型社会の推進に向けて積極的に取り組んでいます。サミーの共通化やリユースを考慮した設計を進め、リユース・リサイクルを



設置・稼働

ホール

新台を設置し、役目を終えた中古遊技機を回収

サミーでは遊技機の販売時に、役目を終えた自社中古遊技機をホールさまから下取り回収しています。また、サミーの回収ルートとは別に、遊技機メーカー団体によって作られた遊技機回収システムを通じて、中古遊技機は適法・適正に処理されています。



中古遊技機



ホール

遊技機回収システム

業界全体で取り組んでいます

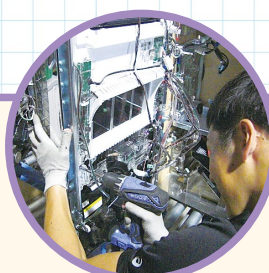
のリユース・リサイクルの流れ

下取・保管・解体

PRセンター

全国の拠点でリユース部品を手分解で選別

ホールさまから下取りされた中古遊技機は、札幌、川越、関西、九州にあるサミーPRセンターに集約されます。その後リユース可能な部品を丁寧に取り出し、その他は素材別に選別し、再資源化(リサイクル)されるものと産業廃棄物に分け、適正に処理しています。



分解作業



残渣

資源として外部へ出ていくもの!

再資源化(リサイクル)

産業廃棄物

※PRセンター=パーツリユースセンター

開発部門と連携し、さらなるリユースを推進

リユース推進部では中古遊技機の回収から解体、そこから生み出される部品の整備と再利用、そして再利用できない部品の再資源化から産業廃棄物処理にいたるまで、一連のサイクルを適切に管理しながらリユースを推進しています。リユースの大きな目的の一つに資源の有効活用があるのはもちろんですが、実は開発部門にもメリットがあります。市場で使われていた中古部品が手元に戻ってくことで、その部品の特性や課題が改めて分かることがあり、今後の製品開発に活かすことができます。現在、サミーではパチンコとスロット、合わせて年間約20万台を回収・解体・処理していますが、そのうちリユースできる部品は約20%程度です。既に開発部門と連携し、共通部品を増やす取り組みを進めており、その共通化された部品を最大限リユース化することが我々に課せられたミッションです。



サミー株式会社 生産統括本部
生産企画本部 リユース推進部
リユース技術企画グループ
マネージャー

高橋 定史

設置・稼働

下取・保管・解体

整備・投入



セガサミーグループの 復興支援活動

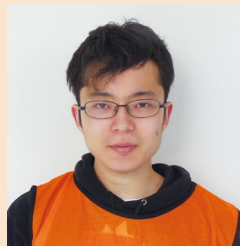
2011年3月11日の東日本大震災から6年余り。セガサミーグループは継続的に被災地支援を行ってきました。これからも真の復興への一助となるべく、私たちが持つエンタテインメントの力で、一人でも多くの方々に感動体験を届ける活動を展開していきます。

2017年度新入社員研修

グループ新入社員研修の一環として、2017年度は106名の新入社員が被災地（宮城県石巻市、女川町、七ヶ浜町、東松島市）を訪問。ビーチクリーンなどの支援活動だけでなく、町長講話や視察をもとに復興施策を発表するなど、これからの業務に活かすべき社会貢献の志を醸成するグループワークを行いました。



新入社員 VOICE



株式会社セガ・インタラクティブ
日野 雄斗

情報を継続して追わずにいる人々にとっては、いつまでも経っても宮城は被災地なのでしょうし、私もそう思っていた一人でしたが、今の宮城はもう“被災した土地”ではなく“復興している土地”でした。いつか“被災地応援イベント”が名を変え、純粋に宮城の方々を楽しませるものになりつつも3月11日の存在があることを何となく思い出してもらえるようなものになることが、最良の道だと思います。



株式会社セガトイズ
若山 博代

初めて被災地に向かい、やっと同じ日本で起きたことなのだと認識できました。“3.11は確かに同じ日本で起きたこと”だとわかっただけでも大きな意味があると思います。復興とは、元に戻すことだと思っていましたが、元の町を超える復興を被災地の町長さんが考えているということは驚きでした。いつまでも被災地ばかり支援していたら、ずっと被災地のままになってしまうので、被災地もそうでない町も同等に扱って支援するフェーズに入れたら良いと思います。

活動アラカルト

(2011年3月～2017年3月まで)
⇒2017年度活動継続

● 支援金

約4億円

● 社員ボランティア活動

回数

参加人数

計46回 のべ555名

● 施設(東京ジョイポリス)招待

回数

招待者数

計24回 のべ625名

● 応援イベント

回数

来場者数

計34回 のべ21,311名

(セガサミーグループコーナー遊技者数)



被災地応援イベント&社員ボランティア

2016年度は宮城県東松島市、女川町、七ヶ浜町、南三陸町、福島県飯舘村にて、社員の運営のもと、復興住宅での談話会(お茶っこ)やセガサミーグループの商品である「スマートボール」「UFOキャッチャー」「え〜でる すなば」「ダーツ」「フラッシュパッド」「パンダコパンダ」などを活用したイベントを開催。また10月には、元東北楽天ゴールデンイーグルス監督のデーブ大久保氏を迎え、東松島市内の中学校野球部の生徒を対象に「セガサミーグループ野球教室」を、11月にはリオ五輪競泳メダリスト松田丈志氏とともに「水泳教室」を七ヶ浜町、東松島市にて開催いたしました。



社外 VOICE

本町の復興まちづくりを担う若手世代は、女川が「おもしろいまち」になっていくことを目指しています。人は「おもしろい」ところに集うからです。現在、若い世代を中心に様々なチャレンジが生まれ、新しい価値や可能性も現れ始めています。



宮城県女川町長
須田 善明氏

アミューズメントやエンタテインメントは心に潤いや癒し、そして前に進む力や元気を与えてくれます。もしかすると、それは人が困難な時ほどに。大震災からの本町の復興に際し、セガサミーグループさまには、イベントへの出店などを通じ各種のサポートをいただけてきました。これからも「楽しさ」「おもしろさ」を追求され、その先の「わくわく」と「新しい何か」の創造を紡ぎ出されることを期待しています。

マネジメント

セガサミーグループの理念体系

セガサミーグループは、オリジナリティ溢れるエンタテインメントを通じて感動体験をご提供するという考えのもと、国際社会の一員であることを強く意識し、様々なステークホルダーとコミュニケーションを図りながら、「良き企業市民」として社会からの倫理的・公共的な期待に応え、社会の持続可能な発展に寄与する価値の提供に取り組んでいます。また、事業活動に留まらず、芸術・スポーツなどの文化の発展支援など、グループ全体で様々な社会活動を継続的に実施し、社会をもっと元気にカラフルにすることで、「豊かな社会の実現」と「文化の創造」を目指します。

2017年にはグループミッションを策定し、その浸透を図るためグループおよびグループ各社のミッションピラミッドを策定しました。ミッションピラミッドは、ミッション（使命・存在意義）、ビジョン（ありたい姿）、ゴール（中長期目標）からなり、最終的には各事業部門や社員個人の目標までリンクすることで、異なる事業・業務環境のもとでもベクトルを合わせ、一体となって持続的な成長を行う道標となるものです。

グループミッション 感動体験を創造し続ける ～社会をもっと元気に、カラフルに。～

「創造は生命（いのち）」、「積極進取」という価値観を共有しつつ、常に革新者として世界中のあらゆる人々に感動体験を提供し続けます。社会をもっと元気に、カラフルにすることで豊かな社会の実現と文化の創造に貢献します。

グループミッションピラミッド

2017セガサミーミッションピラミッド

SEGA SAMMY GROUP MISSION PYRAMID

感動体験を創造し続ける

～社会をもっと元気に、カラフルに。～

＜Mission
存在意義

Be a Game Changer
～革新者たれ～

＜Vision
ありたい姿

各事業分野で業界Top3
(2020数値目標:営業利益率15%・ROA5%)

＜Goal
目標

Value
(価値観・DNA)

創造は生命

×

積極進取

グループCSR憲章  <http://www.segasammy.co.jp/japanese/pr/commu/csr/>

グループ行動規範  http://www.segasammy.co.jp/japanese/pr/commu/csr/gr_csr.html

グループ・マネジメントポリシー  http://www.segasammy.co.jp/japanese/pr/commu/csr/gr_policy.html

グループ・ガイドライン  http://www.segasammy.co.jp/japanese/pr/commu/pdf/csr/20141101_supplychain_csr.pdf

「危機管理」、「ITセキュリティ」、「クラウドサービス利用」、「SNS利用」、「海外贈収贈送禁止」に関する各ガイドラインを定めています。なお、CSR調達に関してはガイドブックとして開示しています。

セガサミーグループのCSR

セガサミーグループは、CSR活動を当社グループの持続的価値創造と社会の持続的発展の双方を実現するための重要な活動と捉えています。

グループCSR取り組みテーマ

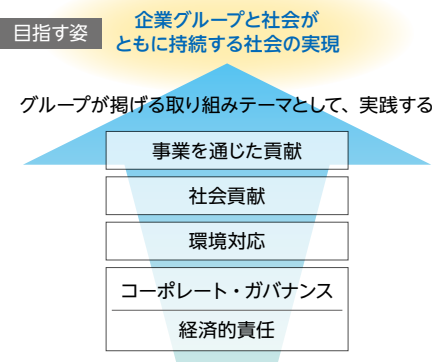
2012年に、グループで取り組むCSRの取り組みテーマとして、「事業を通じた貢献」、「社会貢献」、「環境対応」、「コーポレート・ガバナンス／経済的責任」の4つを設定しました。セガサミーホールディングスの取締役会で承認されたこの4テーマについて、事業会社ごとに進捗管理を行っています。（主な取り組み内容についてはP.16をご参照ください。）

また、これまでのグループの活動を再認識し、社員へのさらなるCSRマインドの浸透と、グループ全体におけるCSR活動をどのように推進していくかを表す「CSR推進方針」を提示しています。



CSR推進方針

<http://www.segasammy.co.jp/japanese/pr/commu/tpm.html>



CSR推進体制

セガサミーホールディングスにグループCSR推進室を設け、グループのCSR活動を統括・管理しています。

グループでの活動推進のため、ホールディングスのCSR推進室長を議長としグループ会社のCSR責任者が参加する「グループCSR事務局会議」を設けています。CSR活動に関する施策の検討・実施・評価（PDCAサイクル）などを行うため、原則として年に1回開催しています。CSR活動の状況については、グループ全社の役員およびセガとサミーの部長以上に本CSRレポートを印刷・配布し、活動状況を共有するとともに、後述のCSRレポートダイジェスト版アンケート（約1,000件）の回答状況（経営理念、行動規範の浸透確認含む）をセガサミーホールディングス取締役会にて報告しています。

ステークホルダーとのかかわり

セガサミーグループの事業活動は、5つのステークホルダー（「お客さま」、「お取引先」、「株主・投資家」、「社員」、「社会（社会貢献と環境）」）とのかかわりの中で成り立っています。ステークホルダーとのコミュニケーションを通じて、信頼関係を深めながら、ご意見やニーズを事業活動に反映することに努めています。

ステークホルダー	主なコミュニケーション機会	主な責任
お客さま	営業活動 / サポート窓口 / 店舗・施設での接客	安心・安全かつ高品質な製品・サービスの提供
お取引先	調達活動 / 説明会 / サプライヤーミーティング / 相談窓口	公平・公正な取引 / 連携強化 / お取引先へのCSRの要請
株主・投資家	各種報告書の発行 / WEBサイト / IR活動	情報開示 / 経営の安定と成長 / 適正な利益還元
社員	社内イントラ / 相談窓口 / 満足度調査 / 労使協議会	職場環境整備 / 公正な評価と成長機会 / 人権と多様性の尊重
社会	WEBサイト / 地域との交流 / 社会貢献活動	本業の繁栄 / 環境経営 / 社会との連携 / 社会貢献活動

環境経営学会による経営評価および専門家によるステークホルダーダイアログ

2017年2月から5月にかけて認定特定非営利活動法人環境経営学会 経営診断推進委員会によるサステナブル経営診断を受けました。診断の結果、評価の平均評点獲得率は71.6%、ガバナンスに関しては90%を超える高得点率になりました（組織統治90、人権92、労働慣行73、環境45、事業慣行88、消費者87、コミュニティ67）。その過程で、2017年4月27日に、経営、人権、環境など各分野の専門家である評価委員の方々とCSRの取り組みについてのダイアログを開催しました。

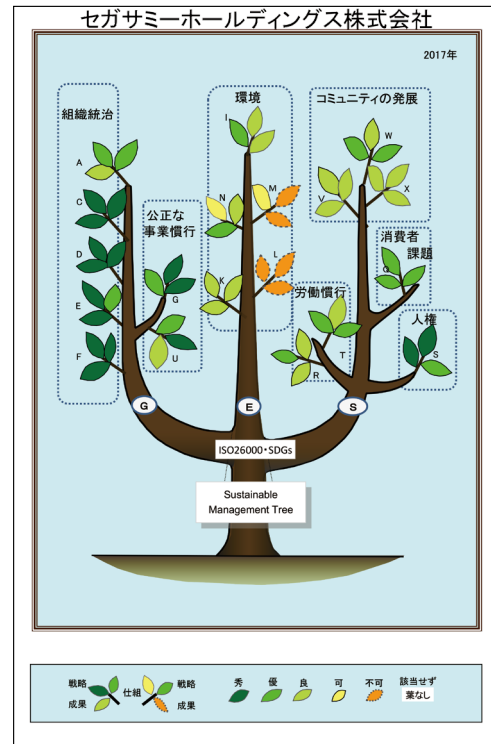
評価委員からは、「経営改善とCSRの向上への真摯な取り組みを高く評価いたします。それらの取り組みの有効性を上げるためには、目標達成のための計画と運営実績のデータ類の整備とPDCAを確実に回して行くことが不可欠です。内部監査を強化し、総合的にリスクの低減に努めていますが、事業ごとの取り組みに差が見られます。中長期のあるべき姿を明確に設定した計画的な取り組みを期待します」との提案や意見が出されました。

弊社CSR推進室長より、「グループとして優先的に取り組んでいる事項があります。『ミッションピラミッド』を活用したグループ全体から各事業、各社、各現場へミッション・理念を浸透する活動で組織統治分野はさらに改善され、また『働き方改革』、『オフィス集約による環境改善、機能強化』により、労働慣行分野も今後大きく改善できると考えています」と回答しました。

ステークホルダーダイアログで出された貴重な提案や意見は、セガサミーグループCSRの取り組みの今後の改善活動に役立てていきます。



ステークホルダーダイアログの様子



結果ツリー図

国連「グローバル・コンパクト」への参画

セガサミーグループは、2014年4月、「国連グローバル・コンパクト」(以下、UNGC)への支持を表明しました。UNGCとは「各企業が責任ある創造的なリーダーシップを発揮することによって、社会のよき一員として行動し、持続可能な成長を実現するための世界的な枠組みづくりに参加する自発的な取り組み」です。私たちはUNGCが掲げる10原則に基づき責任ある経営を推進することによって、持続可能な社会づくりに貢献していきます。また、グローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパン(以下、GCNJ)内に組織されている、SRI/ESG、サプライチェーン、WEPs、レポート研究分科会などの活動に参加し他社との情報共有を行うほか、分科会推進委員会の委員長を務めるなどGCNJの活動に貢献し、社会の課題解決に向けて積極的に取り組んでいます。

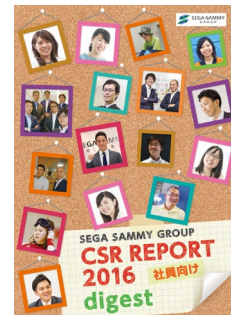
国連「グローバル・コンパクト」項目と10原則		関連ページ	当社グループCSRレポート記載内容
人権	原則1：人権擁護の支持と尊重	P.12-16 P.31 P.37	マネジメント：セガサミーグループの理念体系、CSR お取引先とともに：公平・公正な取引 社員とともに：人権の尊重
	原則2：人権侵害への非加担		
労働	原則3：結社の自由と団体交渉権の承認	P.12-16 P.31-33 P.37-41	マネジメント：セガサミーグループの理念体系、CSR お取引先とともに：公平・公正な取引、お取引先とのパートナーシップ 社員とともに：人権の尊重、人財の育成と評価、多様性の推進、働きやすい職場環境の整備
	原則4：強制労働の排除		
	原則5：児童労働の実効的な廃止		
	原則6：雇用と職業の差別撤廃		
環境	原則7：環境問題の予防的アプローチ	P.12-16 P.42-45	マネジメント：セガサミーグループの理念体系、CSR 社会とともに【環境】：環境経営の推進、各段階における取り組み、その他の環境保全活動
	原則8：環境に対する責任のイニシアティブ		
	原則9：環境にやさしい技術の開発と普及		
腐敗防止	原則10：強要や贈収賄を含むあらゆる形態の腐敗防止の取り組み	P.12-16 P.18-20 P.31-33	マネジメント：セガサミーグループの理念体系、CSR マネジメント：コンプライアンス お取引先とともに：公平・公正な取引

CSR推進活動

● 意識の醸成

セガサミーグループでは、社員一人ひとりがCSR憲章を理解し、その精神に基づいたグループ行動規範に沿って行動してこそ、当社グループが掲げる「グループミッション」を実現できると考えています。セガサミーホールディングスのグループCSR推進室では、グループすべての社員を対象にCSR活動の重要性や取り組む意義を伝えながら、それぞれの理解度に合わせた各種研修をはじめとした浸透策を企画し、実行しています。

また、本レポートをダイジェストにした社員向けCSRレポートを全社員に配布し、CSR意識の浸透とグループ一体感の醸成を行うとともに、ポスターを掲示して社内の意識向上に努めています。



全社員に配布している
CSRレポートダイジェスト版

● CSR研修

2013年10月から、グループ企業のマネジメント層並びに一般層向けCSR研修を実施しています。2016年度は8社から441名が受講し、2013年度からの総受講者数は1,970名となりました。外部講師による講義やグループワークを通じて、社会や事業環境の変化を考え、「社会と企業の共生」や「企業の持続的成長・発展」についての理解と参加者同士のコミュニケーションを深めました。終了時には、受講者全員が「CSR推進宣言」を提出し、セガサミーグループの一員としての存在意義を再確認する機会を設けました。今後も「社会から期待され、信頼され、尊敬される企業、そして社員が誇れるグループ企業になるためにやるべきこと」を社員一人ひとりが意識して行動できるように、研修を継続していきます。



CSR研修のグループワーク

● セガサミーホールディングス会長とグループ社員の意見交換会

各現場の活動成果や課題などを共有し、今後のCSR活動の方向性について議論することを目的に、セガサミーホールディングス会長とグループ社員の意見交換会を年に1回実施しています。グループ各社のCSR推進担当者や、各社が注力するプロジェクトや人事の責任者などが参加し、活発な意見交換が行われます。経営トップと、日常業務では接する機会が無い部門や社員同士が一つのテーブルを囲むことで、グループ間コミュニケーションの活性化に大いに役立っています。2017年度は5社、5名が参加しました。



経営トップとグループ社員が事業やCSRについて語り合う意見交換会

テーマ別課題と2016年度進捗状況および2017年度の取り組みについて

グループが掲げる4つの取り組みテーマに対し、課題を設定し、活動の進捗・実績の管理を行っています。2016年度は、グループの事業構造改革による利益改善を行うとともに、コーポレート・ガバナンスおよびコンプライアンスの強化を行いました。サステナブル経営診断、ステークホルダーダイアログの実施なども新たに取り組みました。2017年度は、Road to 2020に邁進するとともにミッションピラミッドを活用したグループ各社および全社員の意識改革推進、グループのシナジーを一層拡大し効率化を目指した2018年秋のオフィス統合の推進と「働き方改革」を行います。社員の多様な働き方が可能となり、環境面も考慮した効率的なオフィス環境を整えることで、グループの中長期的成長やステークホルダーの皆さまの期待に応えていきます。

● セガサミーグループ「4つの取り組みテーマ」の主な課題と活動実績

※ 略称は、P.1参照

取り組みテーマ	課題	取り組み	2016年度の進捗・実績	主な掲載ページ
事業を通じた貢献	安心・安全で楽しい製品・サービスの提供	製品やサービスの安心・安全の提供、並びに適正な情報開示	- 対象各国の法令、業界基準等に則し、それを上回る自主基準の設置、製品表示などによる情報開示を含む品質保証【E、遊、TOYS】 - 青少年保護対策【SE】 - 正確で適切な製品表示【E、遊、TOYS】	P.22-29
		サポート体制のさらなる充実	お客さまサポート体制の充実【E、遊、TOYS】	
		業界団体標準等に準拠した安全基準の遵守	- 業界団体の基準等に準拠した安全基準【E、遊、TOYS】 - 業界団体を通じた適度な遊技環境の推進【遊、SE】	
		不正防止対策	不正防止【遊】	
社会貢献	事業を活かした社会課題の解決	グループコンテンツを活かしたイベント・製品の提供	- ショールームを定期的に高齢者へ開放(12回、67名)【遊】 - NPOとの協働で玩具を寄贈【SSHD、TOYS】 - 共遊玩具の開発・製造・販売【TOYS】	P.29 P.36 P.48
		災害復旧・復興支援活動やグループ全体の活動を通じた社会貢献	- グループ社員ボランティアを被災地へ派遣(4回、39名)【グループ】 - グループ新入社員研修の一環として被災地へ派遣(11社、106名)【グループ】 - コンテンツを活かした被災地復興支援イベントを開催(6回)【SSHD、E、遊、TOYS、TMS、SE、SLS、DL】 - 有志社員による熊本地震被災地での炊き出し、ボランティア活動、イベント協力【PSR、グループ】	P.11
		その他グループ全体での社会貢献および文化等への発展支援	「TOKYO JAZZ」など芸術活動への協賛【SSHD】 「絵本を届ける運動」(220冊)(発展途上国のエンタテインメント環境整備)【グループ】 - 玩具寄贈など【SSHD、TOYS】	P.47-49
		地域社会への貢献	「ジュニアスポーツフェスティバル」並びに野球教室の開催【SSHD】 - マラソン大会協賛【遊】、街並み清掃活動【SHD】	
環境対応	事業活動から発生する環境負荷の軽減	環境配慮型製品開発・販売の推進	- 低消費電力製品の開発・提供点数の増加【E】 - エコパチンコの開発、製品化への展開【遊】	P.9-10 P.32 P.42-45
		3R(特にリサイクル)の推進	- 下取機リサイクル97.21%達成【遊】 - 廃棄物有価リサイクル(川越工場勤務者による分別活動)の実施【遊】 - AM(アミューズメント)機器の手分解による100%リサイクルを実施【SLS】	
		その他環境保全活動の推進	年次サプライヤーミーティングでの環境規制等の情報を配信【E】	
		地球環境資源への配慮	- グリーン電力証書の購入(100万kWh実績/年)【SHD】 - 横浜市風力発電事業「Y(ヨコハマ)-グリーンパートナー」への協賛(グリーン電力証書2016年実績: 67,090kWh)【SHD】 - 主要グループ会社15社の環境負荷数値把握体制の整備【SSHD】 - 森林里親契約「セガの森」整備によるCO₂吸収量が長野県から評価【SHD】 - シーガイア敷地内の黒松(250m)の管理・保護・育成【PSR】	P.44-45
コーポレート・ガバナンス	コーポレート・ガバナンスおよびコンプライアンスの強化	コーポレート・ガバナンス強化	- ガバナンスコード対応、独立諮問委員会・経営戦略委員会運営、SSHD役員研修等【SSHD】 - 経営理念、行動規範の浸透状況を取締役に報告【SSHD】	P.17-18
		コンプライアンス強化	- グループ役員コンプライアンス研修会(7回、40社、199名)【グループ】 - 各種コンプライアンス研修(42回、885名)【グループ】 - 企業倫理ホットラインの設置による使いやすい通報制度の構築【グループ】 - 個別テーマ研修(105回、3,136名)【グループ】 - 階層各種研修(マネジメント層向け 3回、3社、85名、新入社員向け 3回、11社、115名)【グループ】	P.18-19
		経営者からの継続的なメッセージ発信によるグループ経営理念の浸透	- グループマネジメント層向けCSR研修の実施(4回、5社、126名)【SSHD】 - グループ経営理念をグループイントラネットに掲示、社員手帳冊子にも掲載し社員啓発を促進【グループ】 - CSRレポートダイジェスト版を発行しグループ正社員、アルバイト等に9,947冊を配布【グループ】 - 経営トップから、社会情勢や事業発表とともに、現実に即した形で社員に分かりやすく経営理念の意味と実践についてメッセージを配信(年3回)【グループ】 「国連グローバル・コンパクト」への参画【グループ】	P.13-15
		CSR情報の把握と共有	社会の動静を察知し、リスク感度を高める目的でグループ会社へのCSR担当者向け情報媒体(新聞、雑誌等)を通じたCSR情報の収集とグループ各社への提供(随時)【SSHD】	

コーポレート・ガバナンス

基本的な考え方

セガサミーグループは、コーポレート・ガバナンスを企業行動の最も重要な基盤として位置づけ、企業経営の「効率性の向上」、「健全性の確保」、「透明性の向上」を「コーポレート・ガバナンスに関する基本方針」として掲げ、経営の重要な問題をこの方針に従い判断しています。

コーポレート・ガバナンス体制

業界や製品・サービスなどの知識や経験などに富んだ取締役が迅速かつ最適な経営判断を導き出すと考え、監査役設置会社形態を採用し、あわせて社外取締役の選任、執行役員制度と内部体制の強化を行い、運営と管理の両面からコーポレート・ガバナンス体制を充実させています。

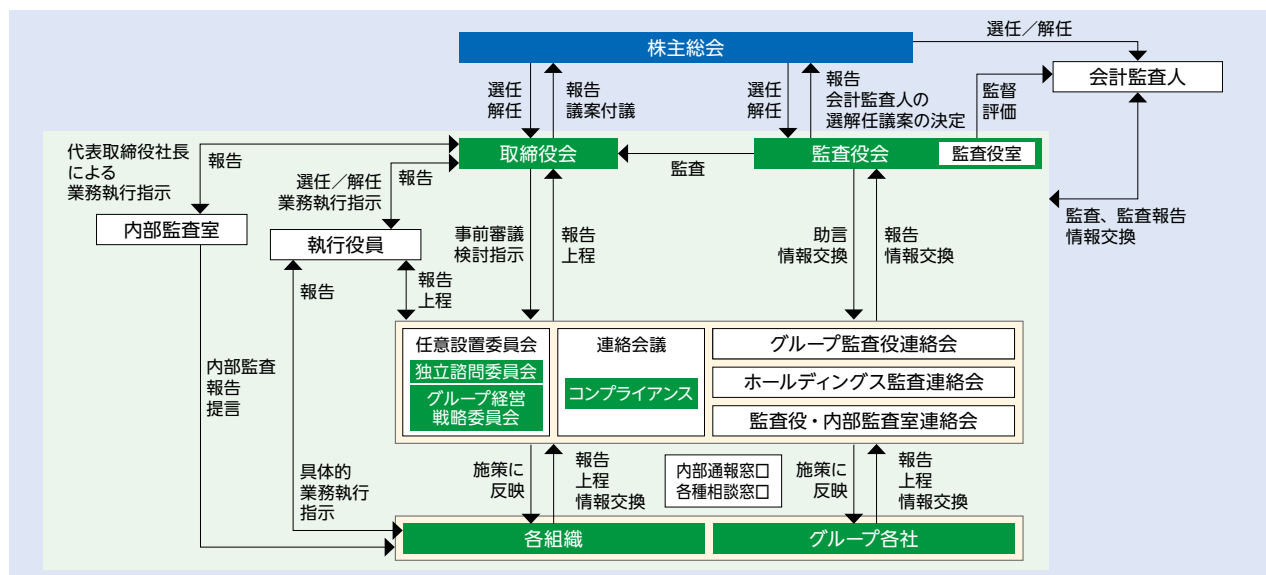
取締役会は8名（うち3名は社外取締役かつ独立役員）で構成され、月例の定時取締役会並びに適宜開催する臨時取締役会において機動的経営を図っています。監査役会は、月例の定時監査役会並びに適宜開催する臨時監査役会において、4名（うち2名が社外監査役かつ独立役員）の監査役が議論を行っています。そのほか、グループ監査役連絡会、ホールディングス監査連絡会などが各種施策を実施しています。

独立諮問委員会は当社の独立社外取締役及び独立社外監査役の全員によって構成され、コーポレートガバナンス・コードの取締役会および取締役評価等に対応するため、取締役会および代表取締役の諮問に応じ独立的な立場から意見具申等を実施します。グループ経営戦略委員会は当社取締役（代表取締役会長CEO除く）および常勤監査役で構成され、当グループの事業収益力向上、効率化、戦略投資案件等に関し議論・検証しております。

URL コーポレート・ガバナンスに関する報告書

<http://www.segasmmy.co.jp/japanese/pr/corp/pdf/governance/governance.pdf>

● コーポレート・ガバナンス体制に関する模式図（2017年6月30日現在）



役員の選任と報酬の方針

取締役および監査役は、取締役会が選定した候補者を株主総会の決議をもって選任しています。

取締役の報酬等については、取締役会により委任された代表取締役が、独立諮問委員会に各取締役の評価を諮問し、その意見を参考として、株主総会で決議された限度額範囲内^{※1}で報酬額を決定しています。

監査役の報酬等については、同範囲内^{※2}で、監査役の協議によって決定しています。

※1 取締役の報酬限度額は、2012年6月開催の定時株主総会において1,000百万円と決議されています。

※2 監査役の報酬限度額は、2004年6月開催のサミー株式会社定時株主総会および株式会社セガ定時株主総会において50百万円と決議されています。

※3 2016年6月開催の定時株主総会終結のときをもって退任した取締役2名が含まれます。

● 役員の報酬等の総額（2016年度）

区分	対象人数	報酬等の額
取締役	10名 ^{※3}	555百万円
監査役	3名	40百万円
計	13名	595百万円

内部統制

「内部統制システムの整備に関する基本方針」に基づき、体制の充実を図っています。グループガバナンス体制の整備と強化のため、グループ・コンプライアンス連絡会議およびこれを支えるグループ内部統制室を設置し、グループ経営にかかわる内部統制構築上の問題点、進捗などについて審議・確認し、その維持・向上に取り組んでいます。2006年3月期より内部統制システムの評価・報告の仕組みの整備・改善を進めた結果、財務報告の信頼性確保への取り組みが定着し、2017年3月期には当グループにおける財務報告にかかる内部統制は有効であると判断されました。

内部監査

当社および主要なグループ会社に内部監査部門を設置しており、25名体制（2017年6月）で当社およびグループ各社を対象とした内部監査を実施しております。当社およびグループ各社の内部監査部門は定期的な連絡会や協働監査の実施を通じ連携しており、監査結果については重要事項を年2回取締役会に報告し、さらに改善状況のフォローアップ報告を行いグループの改善に役立てております。また各種リスク分析や経営層の要望などをもとに年度計画策定の上、監査を実施するとともに、IIA（日本内部監査協会）に基づく品質評価の実施、マニュアル整備、監査後のサーベイ実施などで業務の改善に努めています。

コンプライアンス

基本的な考え方

セガサミーグループは、「グループ行動規範」および「グループ・マネジメントポリシー」に基づき、一人ひとりがコンプライアンスを意識した適切な行動を取るために、様々な取り組みを行っています。

コンプライアンス推進体制

● 推進体制の概要と強化

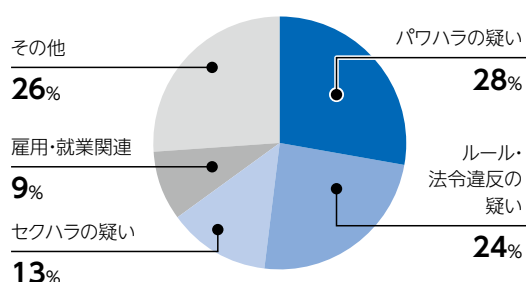
セガサミーホールディングスのグループ内部統制室長が議長を務め、年2回開催される「グループ・コンプライアンス連絡会議」（主要グループ会社のコンプライアンス推進部門管掌役員・部長、監査役が出席）のもと、法令・社会規範を遵守した健全な企業経営を展開するための社内体制構築を図っています。

● 内部通報制度

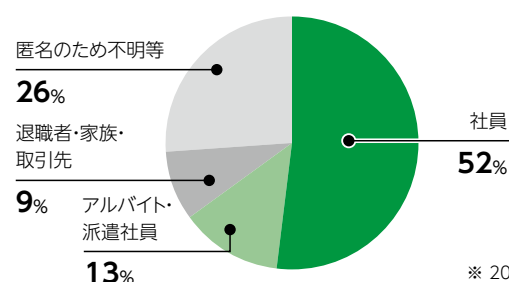
グループ内での自浄機能を活用させ、法令違反や不正行為などを未然に防ぐため、内部通報に関する制度（内部通報制度）を制定しています。グループ各社および社外の法律事務所に通報窓口（企業倫理ホットライン）を設置し、通報事項に関する調査、是正措置、再発防止の実施、通報者の保護制度を設け、社内イントラネット並びにポスター掲示により全社員に周知しています。また、2017年3月より海外にも内部通報制度を拡充しました。

通報制度の実績は2014年度：21件、2015年度：9件、2016年度：16件となります（国内のみ）。また2014年～2017年の通報内容の内訳は、パワハラ等の疑い（28%）、ルール・法令違反の疑い（24%）、セクハラ等の疑い（13%）、雇用・就業関連（9%）、その他（26%）となりました。通報者の属性は、社員（52%）、アルバイト・派遣社員（13%）、退職者・家族・取引先（9%）、匿名のため不明等（26%）でした。

● 通報内容の内訳*



● 通報者の属性*



※ 2014～2017年

コンプライアンス推進活動

● ルールの徹底と意識強化

コンプライアンス意識の醸成と浸透を図るため、グループ各社向け階層別研修を実施しています。遭遇しそうな具体例を編集した「コンプライアンスハンドブック」・漫画を使って分かりやすくした関連記事などを全社員が閲覧できるイントラネットに掲載するほか、年に一度「コンプラ川柳」を全社員から公募しています。

● グループ各社における主なコンプライアンス研修実績(2016年度)

種類	対象	会社名	回数	人数(のべ)
役員コンプライアンス研修	グループ40社の会社役員、監査役、執行役員	SSHD、SHD、SAMMY、SNW、TMSほか	7回	199名
新入社員研修	グループ12社の新入社員	SHD、SAMMY、TOYS、SIC、PSRほか	6回	270名
各種コンプライアンス研修	グループ会社役員、全社員	SHD、SAMMY、SLS、SE、DL、OPほか	42回	885名
個別テーマ研修 (働き方改革、労務管理、知財、下請法、風営法、法務、開発契約、ほか)	グループ会社役員、全社員(研修内容により異なる)	SSHD、SHD、SAMMY、SGC、MARZAほか	105回	3,136名

※略称は、P.1 参照

● 反社会的勢力の排除

セガサミーグループは、反社会的勢力による経営への関与の防止のために、グループ行動規範に反社会的勢力との一切の関係を排除する旨を明記するとともに、お取引先との契約書へのいわゆる暴排条項の組み込み、お取引先が反社会的勢力に該当するか否かのチェックシステムをグループとして導入しています。反社会的勢力からの接触を受けた時は、適宜に警察・弁護士などを含め外部機関と連携して組織的に対処します。

● 腐敗防止

「グループ行動規範」において、(1) 贈賄をはじめ利益供与、便宜供与とみられるあらゆる腐敗を防止すべきこと、(2) 寄付を含む社会貢献活動を行う際は、関係法令に基づき定めた社内ルールを遵守して、公明正大に行うべきことを明記し、2014年7月には「グループ行動規範」をより具体的に示す「グループ・マネジメントポリシー」を制定しました。また、「海外贈収賄禁止に関する方針」については、リスク分析の上、関連部門への研修、定期的な確認メールの配信などを実施しています。

● 安全保障貿易管理体制

事業をグローバル展開しているセガサミーグループでは、外国為替及び外国貿易法(外為法)に基づき、国際社会における平和と安全の維持に貢献するための貿易管理に取り組んでいます。

会社規程の整備や社員向け研修の実施、イントラネットでの情報提供などにより、輸出の業務に携わる社員一人ひとりの理解と意識を高め、法令違反を未然に防止し適正な貿易管理体制を維持しています。

本年度は5月に新入社員約50名に対し、貿易管理の概要、開発部門が行う該非判定について研修を行いました。イントラネットでは該非判定の結果を全従業員が確認できるように公開し、法令で規制される物品が許可なく輸出されないような環境を整えています。

リスク・マネジメント

基本的な考え方

セガサミーグループは、「グループ・リスクマネジメントに関する方針」に基づき、事業の推進および企業価値の維持・向上を妨げる重大なリスクに対し、平時より対策を検討し、損失を最小化する体制を構築することで、様々なステークホルダーへの影響を極力小さくするよう最大限の努力を行い、社会から強い信頼を得る企業を目指しています。

リスク・マネジメントの状況

● 危機管理

セガサミーグループでは、「グループ・リスクマネジメントに関する方針」のもと、「危機管理ガイドライン」を制定し、潜在的リスクの低減および危機の未然防止に努めるとともに、重大な危機が発生した場合の即応体制を整備・維持しています。また、「首都直下地震における帰宅困難者対策のセガサミーグループ基本方針」を策定し、「備蓄品手配」、「建物設備の安全構築」、「安否確認の実施」、「帰宅ルール」についてグループ会社ごとに対応策を定め、イントラネットなどで全社員への周知を図っています。

● 知的財産の管理

セガサミーグループは、知的財産を企業競争力を高める重要な要素かつ企業経営を支える経営資源と位置づけ、グループ会社ごとに方針を掲げて取り組んでいます。

エンタテインメントコンテンツ事業では、各部門に知的財産推進委員を置き、プロジェクトの現場責任者・担当者・新入社員に向けた研修・説明会などを通じて、継続的に知財意識啓発を行っています。また社内イントラネットを通じて知財情報の共有を推進することで、第三者の知的財産権侵害を未然に防ぐとともに自社の知的財産権の適切な管理を実施しています。

さらに知的財産権部が各部門と連携して事業戦略に即した知財戦略を策定・実行することにより、グループ全体で知的財産権を積極的かつ戦略的に取得活用していく取り組みが進められています。また、ブランドの維持・向上のために模倣品対策等も実施しています。遊技機事業では、研究開発の段階ごとに技術調査などを実施し、徹底したリスクアセスメントを行っています。

● 情報セキュリティ

セガサミーグループでは、お客さまの情報はじめ、経営情報や営業情報などすべての情報を重要な財産と捉え、「グループ情報管理に関する方針」、「グループITセキュリティに関する方針」、「グループ個人情報保護に関する方針」、「情報管理規程」などを定めています。また、グループ各社の担当者による情報共有の場を設け、グループ全体での取り組みを一層強化するための施策を話し合うなど、情報管理体制の強化に向けた取り組みを進めています。

個人情報については、「グループ個人情報保護に関する方針」に基づき各社で「プライバシーポリシー」を定め、お客さまの個人情報の適切な管理や運用に始まり、不正アクセスや紛失、改ざんおよび漏洩などを防止する対策を講じています。なお、セガホールディングスでは、2017年6月6日付でプライバシーマーク(Pマーク)を取得しました。今後もお客さまの重要な個人情報を取り扱う企業として、プライバシーマークの取得に慢心することなく、個人情報保護方針に基づき個人情報保護マネジメントシステムの運用を徹底することで、お客さまからより一層の信頼をいただけるよう個人情報保護体制の強化に努めます。セガグループのサービスがひとつのIDで簡単・便利に楽しめる「SEGA ID」に関する個人情報もセガホールディングスの管理下にあるため、上記の通り適切に取り扱っています。

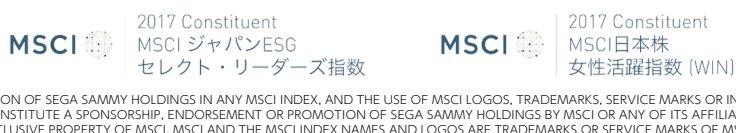
また、eラーニングなどを通じて各社員の教育・啓発を継続し、個人情報の取り扱いに対する理解を深め、意識の向上に努めています。

社外からの評価

GPIFにESG指数として採用された社会的責任投資インデックスに選定

セガサミーホールディングスは、年金積立金管理運用独立行政法人(GPIF)がESG指数として採用した社会的責任投資インデックス「MSCIジャパン ESGセレクト・リーダーズ指数」「MSCI 日本株女性活躍指数(WIN)」の構成銘柄として選定されました。

両指数は世界的なESGリサーチ・指数のプロバイダーであるMSCI Inc.が2017年6月に新たに発表した指数です。「MSCIジャパンESGセレクト・リーダーズ指数」にはMSCIジャパン IMIトップ500指数構成銘柄の中からESG評価に優れた企業として選定されました。「MSCI日本株女性活躍指数」には同構成銘柄から、女性活躍推進法により開示されるデータに基づき、情報開示の充実度が高評価されたものと考えます。



「第20回環境コミュニケーション大賞」優良賞を受賞

セガサミーホールディングスの「セガサミーグループ CSRレポート2016」が、環境省および一般社団法人地球・人間環境フォーラムが主催する「第20回環境コミュニケーション大賞」で優良賞を受賞しました。セガサミーホールディングスは今後も環境配慮経営に意欲的に取り組み、積極的な情報開示に努めていきます。





お客さまとともに

CSR憲章

私たちは、いつの時代においても、
お客さまとともに歩みながら、感動体験を創造し続けます。



セガサミーグループのアプローチ

人は「衣、食、住」のみならず、楽しさやワクワクがあることによっていきいきとした生活が送れます。セガサミーグループの存在意義であり、社会から期待されていることは、エンタテインメントを通じて、人びとに感動体験をお届けし、日々の生活に潤いや充足感、また明日への活力といった価値をもたらすことです。安心・安全で高品質な製品やサービスの提供はもとより、エンタテインメントを通じて社会課題の解決の一助となる製品やサービスを開発・提供します。また、業界団体などとも積極的に連携・協力し、青少年の健全育成や適切な遊戯(遊技)環境づくりのための活動も推進します。

2016年度の主な取り組み

1. お客さま満足の追求：お客さまニーズの把握と反映
2. 製品・サービスの安全と品質保証：品質保証体制、問題発生時の対応、施設の安全確保
3. 健全に楽しんでいただくための取り組み：製品表示、不正対策、青少年育成、のめり込み問題
4. 製品・技術を通じた貢献：共遊、知育玩具の開発・製造・販売

VOICE

日々、イベント担当としてお客さまと直接ふれあえる機会を模索しています。2016年11月19日・20日には「元気なセガ」をテーマに、セガグループ合同による初のイベントとして「セガフェス」を秋葉原で開催しました。約半年の準備期間のうちには様々なアイデアが生まれ、すべてのセガファンが楽しんでもらえるイベントを目指して、企画を練り上げていきました。予算的にも時間的にも決して簡単ではないプロセスの中で、何度も「これがセガの底力」だと思える瞬間に出会えたことは、運営に携わった一人として誇らしく感じています。

当日は、ステージイベント48時間生放送で150万以上の視聴を達成したほか、青い服の着用を呼びかけ秋葉原の街を「セガブルー」で染める企画や、アーケード&コンシューマーゲームのコラボ企画など、多彩な催しを通じて皆さまと素晴らしい時間を共有できました。セガを支えてくれる皆さまに感謝の気持ちを示す絶好の機会として、これからも「セガフェス」を大切に育てていきたいと思っています。



お客さまに感謝を伝えた「セガフェス」



「セガフェス」を通じて、
ファンの皆さまの支えを
実感できました

株式会社セガゲームス 国内アジア事業部 宣伝部
イベントチーム チームマネージャー

本間 公介

お客さま満足の追求

基本的な考え方

セガサミーグループは、お客さまのニーズや市場の変化を的確・迅速に把握し、製品開発やサービスの向上に活かしていくことが、継続的にお客さまから支持していただくために必要だと考えます。市場に製品・サービスが溢れる中、「買って良かった」、「もう一度利用したい」と思っていたら製品・サービスの提供をするために、それぞれの事業や業界の特性に合わせた手法で、お客さまの声やご要望をうかがう仕組みを整えるとともに、マーケティング調査などから得られた情報も活かした製品づくりやサービスの提供に努めています。

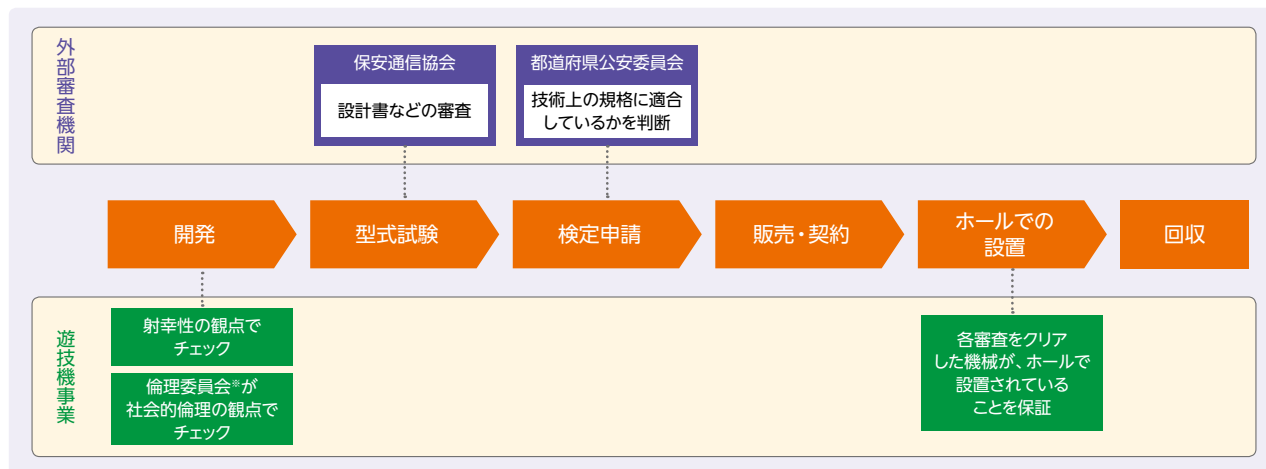
お客さまニーズの把握と反映

● 開発における活動

エンタテインメントコンテンツ事業ではセガグループのグループバリューである「創造は生命(いのち)」の精神のもと、お客さまに当社グループならではの「感動体験」をお届けするため、日々革新的な製品の開発にチャレンジしています。

遊技機事業では、「遊びを通じてお客さまに感動体験を届けたい」というプライドをもち、独創性と先見性でヒット機を創出しています。全機種の企画・開発段階の早期・中期・後期の各段階で製品の評価と改善を繰り返し、多様化する市場環境やニーズを的確に捉えるマーケット・インの手法を強化するとともに、リユースのしやすさも念頭に置いて設計にあたるなど、製品のライフサイクル全体を見据えた開発を進めています。ユーザーの皆さまやサミー社員に商品評価アンケートなどを実施して、製品開発に反映しています。また、ホールの皆さまには積極的な対話とともに定期的なアンケートを実施し、ニーズを迅速に捉えています。

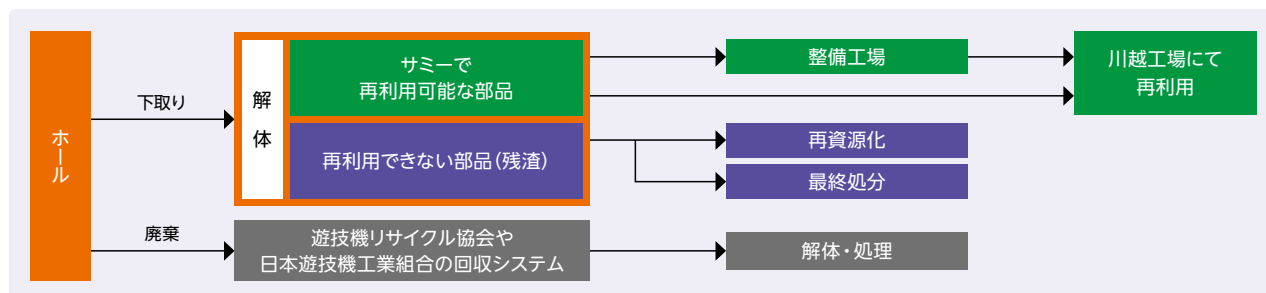
● 機種の開発から営業・設置までのフロー図



※倫理委員会：P.29参照（サミー社内の監査機関）

メーカーとして、製品の回収・処理にも責任をもって取り組んでいます。販売した全機種を対象に一定期間、下取りサービスを行っており、年間で約20万台以上の遊技機を下取りし、部品の一部をリユースしています。これらを通じて、お客さま満足度の向上や、製品の不法投棄の防止、資源の有効活用につながっています。また、ホールさまが独自で遊技機を廃棄したい場合は、遊技機リサイクル協会や日本遊技機工業組合の回収システムを通じて廃棄できます。サミーはその遊技機の回収・解体・処理にかかる費用を全額負担することで、メーカーとしての責任を果たしています。

● リユース・リサイクルフロー図





● 部門の連携と情報共有

エンタテインメントコンテンツ事業では、お客さま満足度の向上を実現するためには、多様化するニーズを的確かつ迅速に把握し、製品開発やサービスに活かしていくことが重要と考えています。開発・マーケティング・販売などの各部門が密に連携し、マーケティングリサーチ機能を強化しています。

遊技機事業では、ホールとユーザーの両方の「お客さま」に満足いただける遊技機を開発するために、2007年より開発、営業、生産部門が連携し、「ゲート」という3部門間の意見交換の場を、製品開発から市場へリリースされるまでに3回以上（企画書段階・試作品段階・型式申請試験前など）設けています。また、市場投入後には、製品に対する調査を行います。まず、導入直後に、全社員に向けてユーザー目線でのアンケートを実施します。その後、ユーザーおよび営業担当者に対してアンケートを実施し、最終的にホールおよびユーザーの皆さまの製品に対する評価、ご意見を集約します。その調査結果をもとに、多面的な評価および要因分析を行い、リリースから約2ヶ月後に「製品総括会議」を実施しています。上記における「ゲート」や「製品総括会議」から得られた情報を適宜関係部門間で共有しながら、開発プロセスにおけるPDCAサイクルを実現し、次機種開発に活かしています。

● 安定的な供給体制の構築

遊技機事業では、ユーザーの皆さまに魅力溢れる製品を提供することが最大の使命であり、それがホールの皆さまの満足にもつながるという考えのもと、製品の生産・供給体制においては、発売初期段階に集中する傾向がある遊技機の需要に的確に応えるために、2012年に新工場を新設し生産能力を増強しました。新工場の隣接地には物流センターも新設し、保管能力の拡張・在庫管理の集約による生産流通体制の効率化を図りました。

また、大規模災害などの非常時に備え、お取引先の工場の立地などを部品別にデータベース化し、現状を把握しています。有事を想定してお取引先に事業継続計画（BCP）の策定をお願いしており、お取引先と計画の内容を共有しています。2016年度で、BCPを策定済みのお取引先は104社、策定中は8社となっており、策定予定のないお取引先はありません。

● お客さまの声を聞く活動

エンタテインメントコンテンツ事業では、お客さまと直接対面する展示会や店頭イベントで製品の魅力を伝えるために、お客さまの層や嗜好に合わせたプロモーションを展開しています。また、直接対話やアンケート活動を行うことで、お客さまの声をさらなる製品価値の向上に活かしています。

遊技機事業では、製品の導入ごとにユーザーの皆さまを対象に定量・定性的な市場の動向調査を行っています。定期的にホールを訪れ、積極的に情報交換を行うことにより、ホールの皆さまの声を聞き、さらなる製品価値の向上に活かしています。その一例として、ホールの皆さまからの「訪日旅行中の方に遊技説明をしたい」という要望を受けて、一部の機種について英語、中国語、韓国語で記載した遊技説明シートを提供しています。このほか、業界団体が推奨する新ジャンルぱちんこ「ちょいパチ」をリリースし、当たりが出やすく、少ない遊技代で手軽に遊びたいというお客さまの声を反映しています。また、業界の活性化を図るため、株式会社ユニバーサルエンターテインメントと共同で「ユニバーサルカーニバル×サミーフェスティバル2017」というイベントを開催し、17,000人を超えるお客さまにご来場いただきました。

● お客さまサポート体制

エンタテインメントコンテンツ事業では、お客さまの声を製品・サービスの品質向上につなげるため、ユーザーサポート窓口を運用する一方で、様々なお客さま情報を社内各部署に届ける専門の組織（CRMソリューション企画推進部）を設けています。2015年5月に設立されたこの組織は、旧来のお客さま相談室である「お客様相談課」と「VOC活用課」の2つのチームで構成されています。

①お客さまの満足を追求する「お客様相談課」（旧来のお客さま相談室）

お客さま一人ひとりのお問い合わせに迅速・的確にお応えする一方で、関連部署に市場の動きを報告。すべてのユーザーの皆さまに最新情報が伝わるように、公式サイトでの発信につなげるよう働きかけることもミッションとしています。

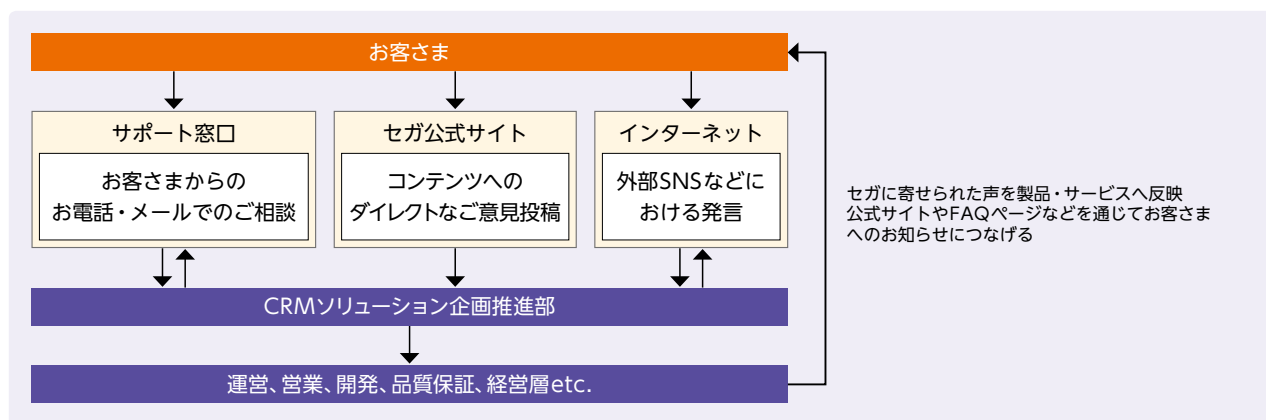
②社内に市場の声をフィードバックする仕組みを設計・構築する「VOC活用課」

「お客さまの声」（Voice Of Customer）を社内に届ける仕組みづくりをミッションとするこのチームでは、様々なツールを活用し、ユーザーアンケートやセガ公式サイトに寄せられたご意見・ご要望など膨大なデータを分析するとともに、外部SNS上の声を効率的に収集・蓄積。これにオンラインゲームやスマートフォンアプリにおけるユーザーのプレイデータを重ね合わせ、徹底的に分析することで、すぐさまゲーム内容の調整や次なる進化に活かす体制づくりが進んでいます。

お客さまのニーズを的確かつタイムリーに把握し、情報を開発部署にフィードバックすることで、製品・サービスの改善に反映し、お客さま満足度の向上につなげています。

また、アフターサービスにおいては、保守・補修・パーツ提供や物流機能を担うセガ・ロジスティクスサービスと社内対応部門が、品質問題の傾向分析や改善策を討議し、開発・生産・販売部門へ報告することで改善を図っています。

● お客さまの声にお応えする仕組み・体制(エンタテインメントコンテンツ事業)

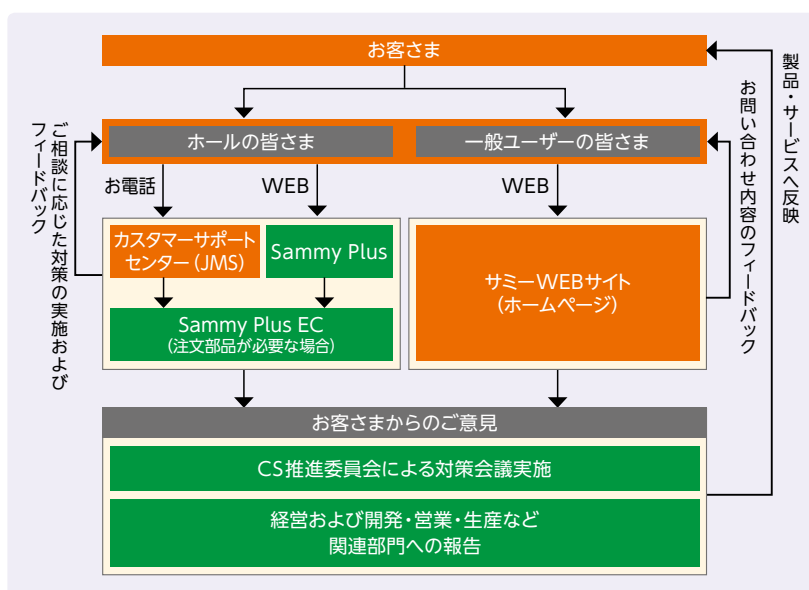


遊技機事業におけるお客さまの声に対応する窓口として開設した「カスタマーサポートセンター」は2017年度で12年目となります。現在は、お客さまの期待に沿ったサービスの提供を目指しており、なかでも、お客さまが最も期待されている「的確な故障対応」を提供するために、オペレーター自身が機械を分解し、組み立て直すことによって構造を深く理解するといった教育研修を行うとともに、故障内容の分析などに注力しています。

2016年度からは、故障に伴う交換部品のご注文をいただいたお客さまを対象に、実際に不具合が解消されたかどうか、お電話をかけて確認する取り組みをはじめました。お客さまからの声を待つだけでなく、積極的にコンタクトを図ることで、お客さま満足度の向上につなげるとともに、いただいた情報を故障診断に反映することで、よりの確な故障対応を目指しています。

また、これらお客さまから寄せられた声は、新機種の初納品から1週間以内に開かれる情報共有会議などを通じて、関連部署と共有しています。

● お客さまの声にお応えする仕組み・体制(遊技機事業)



● お客さまとの双方向コミュニケーション

エンタテインメントコンテンツ事業における『ファンタシースターオンライン2』をはじめとするオンラインゲームでは、お客さまから寄せられたご意見・ご要望や、ゲーム内の不具合報告に対し、その反映予定や対応状況を公式サイト上で公開することで、お客さまとともに創るサービスであることを訴え、また、安心して快適に楽しんでもらえるように努めています。

遊技機事業の情報配信サイトとして2014年にオープンした『Sammy Plus』は、行政への届け出書類の書き方の事例や、トラブルシューティング・部品の交換方法など、実務で活用できる情報を掲載しており、全国約10,000店のうち、約9,000店のホールの皆さまにご登録いただいています。また、2017年1月より、新たなサービスとして、2,000を超える交換用部品がWEB上で注文できる業界初のサービス『Sammy Plus EC』をリリースしました。これによりサポート情報閲覧から部品注文まで24時間365日対応のお客さまサポート体制が整いました。ホールの皆さまの都合の良い時間に、必要な情報が収集でき、簡単に部品注文を行えるなど、ホールの皆さまの負担の軽減を実現しています。またコールセンターでは電話注文対応業務にあたっていた人員を故障対応業務に集中させることで、一層のサービス向上を図ります。

Sammy Plus

ホール関係者さま専用サイト『Sammy Plus』



お客さま視点での業務改善活動

アミューズメント施設を運営するエンタテインメントコンテンツ事業のセガ エンタテインメントでは、より多くのお客さまに笑顔と感動をご提供するためのサービスやお店づくりに努めています。各店舗では地域特性やお客さまの層に合わせて、社員が様々なアイデアを出し合い、工夫を凝らしたサービスを展開しています。またジャパンアミューズメントエキスポ（展示会）などで、各店舗の接客の技術を披露するイベントなどに参加し、社員のモチベーションと業務改善活動の向上を図っています。

製品・サービスの安全と品質保証

基本的な考え方

セガサミーグループでは、製品やサービスを提供する各国・地域、業界の特性に応じた最適な品質保証体制をグループ各社がそれぞれ構築し、開発から生産、販売、サービスにいたる全プロセスにおいて、品質の維持・向上に努めています。特に製品の安全性については、各種法令や業界団体が定める基準はもとより、グループ各社が定める自主基準に基づき、徹底した安全管理を行うことにより、お客さまから信頼と満足を得られる製品・サービスのご提供を目指しています。

製品・サービスの安全と品質保証

● 品質保証体制

エンタテインメントコンテンツ事業のセガ・インタラクティブでは、営業、開発などのラインから独立した立場の品質保証部が、品質保証規程に基づいて製品やサービスの安全性と品質を一括して管理することで、体制の強化を図っています。特に製品の安全性については、自主基準並びに業界団体（JAMMA[※]）のガイドラインに準拠し、安全管理を徹底しています。海外においても、現地の規制や状況に合った品質保証体制を構築しています。また、開発や生産、営業、品質管理などの各部門の関係者が集まり、製品仕様、設計仕様、量産仕様、量産判定の4つの観点で製品を評価するデザインレビューを実施しています。このほか、リスクマップを用いて製品のリスクを評価するPL診断も行っており、さらに出荷判定会議で出荷の最終的な判断を議論するなど、厳しい基準を満たした製品のみを市場にリリースしています。2016年度は、景品表示法に則った製品であることをチェックシートにより点検する取り組みを始めました。

※ JAMMA：一般社団法人日本アミューズメントマシン協会。

● AM機器の品質保証全体フロー概略



※DR＝デザインレビュー（設計審査）

● お客さまの声を活かす仕組み



エンタテインメントコンテンツ事業のセガトイズでは、「お客さま重視」と「製品安全の確保」を経営の最優先事項に掲げ、製品安全に関する基本方針に基づく自主行動計画を策定・推進しています。開発・設計段階では、設計審査や妥当性検証のゲートを設け、自主基準に加え日本玩具協会の玩具安全基準(ST基準)、食品衛生法などに準拠した安全性の確保と市場での不具合の未然防止に努めています。生産開始前に、試作品を用いた耐久・耐過重試験や落下試験など、様々な品質試験を徹底し、品質・安全を確認しています。また、玩具は幅広い層のお客さまが使用することから、製品含有物質についての食品衛生法などに基づく品質基準、特にポリ塩化ビニル(PVC)では管理要項、誓約書を設けるなど、厳しい自主基準を設けています。

耐久試験、引張試験、落下試験

スイッチやボタン、引張試験、落下時などの耐久性を確認します。



静電気試験

人体モデルと等価の静電気を製品に印加し、安全性、故障などが発生しないかを確認します。



高温高湿槽試験

温度、湿度の変換装置で様々な環境条件下での保存性、動作などを確認します。



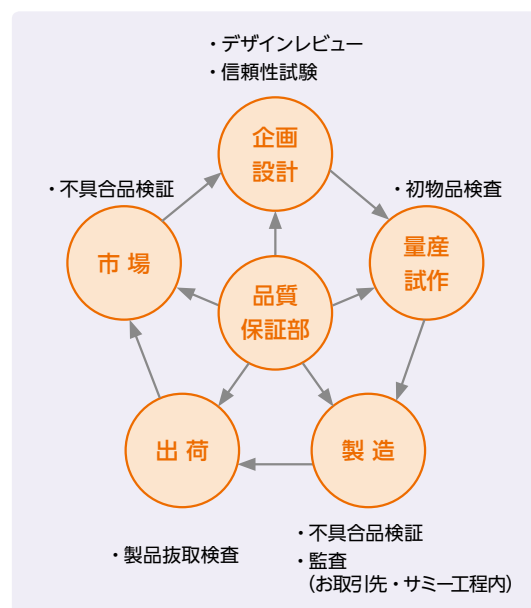
蛍光X線分析装置

製品にカドミウムや鉛、水銀などの有害物質が含まれていないかをすべての製品で確認します。



遊技機事業では、積極的な創意工夫と効果的に改善を行う品質保証活動により、安全で良質な製品やサービスを提供しています。また、人体の安全にかかわる「重要不具合」ゼロという目標を設定し、品質保証規程をはじめとする社内規程を設け、品質マニュアルの作成や、品質管理文書・品質記録の作成を行っています。そしてお取引先においても4M(Man, Machine, Material, Method)管理がされているかをチェックし、資材部と品質保証部がお取引先の監査・指導を行うこともあります。2016年からは、パチンコ、パチスロ両方の製品に対し、「打込み検査」を製品抜取検査の項目に加えています。可動役物に関しては、お取引先や開発部門と連携し、構造・仕様を踏まえて検査仕様の適正化を図っています。生産開始時には必ず工程監査を行い、適正な検査を実施することで品質の向上に努めています。また、開発・営業・生産部門との連携強化による品質向上も図っています。

● 品質保証活動(遊技機事業)



● 問題発生時の対応と情報開示

エンタテインメントコンテンツ事業のセガ・インタラクティブでは、製品やサービスが起因となる品質問題が発生した場合は品質保証部に情報が集約され、その規模や種類に応じて、確実に迅速な対応を行っています。問題発生の原因などの情報を開発や生産などの関連部門にフィードバックするとともに、事例をデータベースに蓄積して品質管理業務に反映させるなど、恒久的に再発を防止するための体制強化も図っています。情報開示については、ダイレクトメールや業界紙などを通じて速やかに行い、必要に応じて専用窓口を設置するなど、アミューズメント施設運営事業者さま、ユーザーの皆さまの不利益を最小限に抑えるよう努めています。

遊技機事業では、品質上の問題が発生した場合には、CS(顧客満足)推進規程に基づき関係部署に報告され、お客さま重視の迅速な対応と合わせて適宜情報を開示することとしています。品質上の問題への対処としては、まず不具合現品を検証することによって、設計・製造・輸送など、どの段階の問題なのかを速やかに判断します。開発・営業・生産などの関連する全部



門が参加する「新機種トラブル情報共有会議」をすべての機種の出荷後、1週間を目安に開催し、いち早く問題解決し、再発防止を図るよう努めています。

製造物責任 (PL) にかかわる事件は、2016年度も発生していません。

● 法規制に対応したものづくり

パチンコ・パチスロ業界において製品を量産・販売する際は、「風俗営業等の規制及び業務の適正化等に関する法律施行規則」に基づく複数の許認可プロセスを経ることが義務づけられています。まず、一般財団法人保安通信協会に型式試験申請を行い、その後、各都道府県公安委員会の検定*を取得し、営業・生産段階へと進むことができます。

* 自社が開発した遊技機の型式が国家公安委員会が定める技術上の規格に適合しているか否かを審査する検定。

施設・サービスの安全確保

エンタテインメントコンテンツ事業のセガ エンタテインメントでは、アミューズメント機器はもちろん、お客さまの安全にかかわる施設に関しても定期的に設備点検を実施し、お客さまの安全確保に努めています。また、多くのお客さまに安心して気持ち良く過ごしていただくために、分煙エリアの設置なども積極的に進めています。今後も、自社で定めるチェックリストに基づき、運営面、管理面の両面から自主点検を実施し、安全にかつ安心して楽しんでいただける環境確保に努めます。

健全に楽しんでいただくための取り組み

基本的な考え方

セガサミーグループの製品・サービスを健全にお楽しみいただくために、各種法令遵守や消費者保護の観点から、利用者の皆さまが安心して選べる・楽しめる環境づくりに努めています。エンタテインメントコンテンツ事業のセガゲームスでは、業界団体による未成年保護をはじめとする各種ガイドラインの策定協力とその遵守を行っています。また、パチンコ・パチスロ業界では、依存 (のめり込み) 問題や不正行為などの諸問題に対し、業界全体で解決策を模索し、業界の健全化を推進していきます。

製品・サービスへの表示とラベリング

エンタテインメントコンテンツ事業のセガゲームスでは、家庭用ゲームソフトの製品パッケージや取り扱い説明書などに関して、お客さまに安心して製品やサービスをご利用いただけるよう、説明法規制や業界団体が定めるガイドライン・社内規程に準じて、分かりやすく適切に表示することを徹底しています。また、各種製品における利用対象範囲の明確化や倫理問題にも積極的に取り組んでおり、各国の倫理審査結果に従った表示を行っています。日本においては、CERO*に基づく対象年齢表示に加え、独自の自主基準も表示しています。またCEROの審査を通じて得たノウハウを蓄積し、事例をもとにした9カテゴリー、26項目のガイドラインを策定するほか、イントラブログを通じて国内外の倫理的な自主表現に関する最新事例を随時発信することで、社員の意識向上を図っています。

エンタテインメントコンテンツ事業のセガトイズでは、日本玩具協会が定めるおもちゃの安全基準であるST基準に則った製品開発を行い、製品にはSTマークを表示しています。また、子どもたちに安心・安全に遊んでもらうために7つの注意絵記号をパッケージに表示し、これらに当てはまらない注意事項に関しては独自のマークを作成・表示しています。

* CERO：特定非営利活動法人コンピュータエンターテインメントレーティング機構。



ST基準に則った独自の注意絵記号



適正なコンテンツ利用のための整備

スマートフォンやタブレット端末向けコンテンツを提供するエンタテインメントコンテンツ事業のセガゲームス並びに遊技機事業のサミーネットワークスでは主に、未成年者の過度なゲーム利用や課金の問題に配慮し、一部タイトルで年齢認証による月間の課金上限を設けています。また、有料で販売しているポイントなどを使用して遊ぶガチャについては、入手できるアイテムのレアリティごとの、もしくはアイテムごとの入手確率を明記することを社内ガイドラインで定めるなど、曖昧な表現による過度な期待や、それによる過課金を防ぐよう努めています。いずれも業界団体のガイドラインに準じたもので、今後も、利用者の皆さまが安心して楽しめる健全なゲーム環境づくりに努めていきます。

青少年の健全な育成に向けた取り組み

エンタテインメントコンテンツ事業のセガ エンタテインメントでは、業界の発展と健全な施設運営を実現するために、「AOU青少年アドバイザー※」資格の取得を推奨しています。また業界が一丸となって、保護者同伴時の年少者の立入規制緩和に向けた環境整備に努めてきました。その結果、2016年6月23日から法律が一部改正され、16歳未満のお子さまも保護者同伴であれば18時以降もアミューズメント施設で遊んでいただけるようになりました（一部都道府県を除く）。今後も、多様なお客さまのニーズにお応えできるよう、努力していきます。

※ AOU青少年アドバイザー：AOU（一般社団法人 全日本アミューズメント施設営業者協会連合会）主催の青少年指導員講座を修了したアドバイザー。

不正防止対策

遊技機の射幸性の抑制と不正改造の防止を主な柱とした「風適法施行規則等の改正」（2004年7月施行）を受けて、遊技機事業では、不正な方法で利益を得る、いわゆる“ゴト行為”を未然に防ぐために遊技機不正対策グループを設置し、継続的に市場情報を収集し不正に強い遊技機づくりに取り組んでいます。複雑化する不正改造に対しては、遊技機の流通過程を把握することで、不正に改造された遊技機そのものを市場から根絶していく取り組みを進めています。

また、一部市場に流布している根拠の無い不当な攻略情報に対し、サミーのWEBサイトや小冊子等で注意を促すなどの対策を図っています。

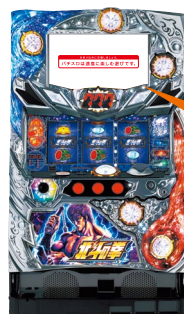


機種別の詳細情報や遊び方を掲載した小冊子でも、不正防止などの注意を促しています

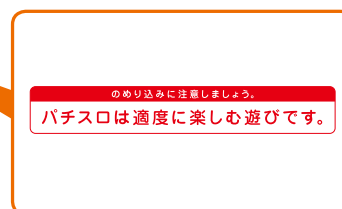
依存（のめり込み）問題への取り組み

パチンコ・パチスロ業界では、業界全体の総意として、パチンコ・パチスロ遊技が真の大衆娯楽として国民から愛されるよう、パチンコ・パチスロ依存（のめり込み）問題対策を強化し、最優先課題として取り組んでいます。具体的にはこれまで、のめり込みの実態調査や過度な遊技を予防するための注意喚起、のめり込みに起因する児童車内放置撲滅の活動を行ってきました。また、のめり込み問題の予防対策として、かねてより、広告宣伝の際に様々な媒体に共通標語「パチンコ・パチスロは適度に楽しむ遊びです。のめり込みに注意しましょう。」を掲載しておりますが、さらに2017年10月より、遊技機の液晶画面に同共通標語を表示するなど、様々な角度から予防対策を強化しています。

遊技機事業では、パチンコ依存問題相談機関「認定特定非営利活動法人リカバリーサポート・ネットワーク」を支援しており、今後は同機関の告知を各方面に展開していく予定です。



© 武論尊・原哲夫 / NSP1983. © NSP2007
著作権許諾証 YFC-128 © Sammy



依存予防啓発ポスター

のめり込み防止を呼びかける画面（パチスロの場合）



倫理・社会的な配慮

エンタテインメントコンテンツ事業のセガ・インタラクティブでは、JAMMAの制定する「健全化を阻害する機械基準」の運用規程を遵守し、製品化前の社内検証において、過度に残虐な表現やお客さまを不快にさせてしまう表現が無い、チェックを行っています。

遊技機事業では社内の監査機関である倫理委員会を設置し、一定の倫理基準や社会ルールなどを満たした遊技機を開発しているかどうかを開発の各段階でチェックしています。独自のガイドラインを策定し、犯罪行為を誘発する恐れのあるものや著しく射幸心をそそる恐れのある内容などが製品の演出などに含まれることのないように、厳しく管理しています。

業界・外部団体との連携

パチンコ・パチスロ業界では、のめり込み問題や不正行為などの諸問題があることも事実です。これは当社だけの問題ではなく、問題解決に向けて業界全体がベクトルを合わせていくことが重要と考えています。2016年度は、業界で課題を共有し、解決を目指すための会議に積極的に参加するとともに、業界を挙げた闇スロ[※]（違法賭博）撲滅に向けた活動（ポスター作成、HPコンテンツ内容の充実、保有実態調査の実施など）にも積極的に参加しています。

これまで遊技機を工場から出荷するまでがメーカーの責任の範囲となっていました。2016年4月からはホールに設置する段階まで責任の範囲が拡大しました。業界団体を通じて製品のトレーサビリティの確保に厳格に取り組み、不正改造を防ぐとともに、配送時のセキュリティを一段と強化するため、配送事業者の業界団体である遊技機運送事業協同組合連合会との連携を強化しています。また、遊技機の点検および取り扱いを適正に行える者の条件を整備し、必要な知識および技能を有している遊技機取扱主任者のみがメーカーの委託業務に携われるようにしました。この遊技機取扱主任者の資格は、自社製品を取り扱う際には必要とされていませんが、業務レベル向上につなげるため、遊技機事業では営業担当者のほぼ全員が取得しています。

※「闇スロ」：『風俗営業等の規制及び業務の適正化等に関する法律』に基づく許可を受けず、貸メダル料金を法外な額とし、改造等により射幸性を著しく高めたパチスロを使用するなどして客に遊ばせるもので、賭博開帳図利罪及び賭博罪が適用される違法行為。



パチンコ・パチスロ産業21世紀会「闇スロ撲滅ポスター」

製品・技術を通じた貢献

視覚障がいを持つお子さまも楽しめる体験型共遊玩具[※]

エンタテインメントコンテンツ事業のセガトイズが提供する『アンパンマン くみたてDIY はしるぞ!! ねじねじアンパンマンごう』は視覚に障がいを持つお子さまも楽しく遊べるよう配慮された玩具です。ST基準に準じた安心・安全なお子さまサイズの電動ドライバーとレンチを使って、アンパンマンに登場するおなじみの乗り物のパーツを組み合わせるDIY体験ができます。企画の段階からバリアフリーを意識した開発が進められ、「ドライバーの先端がねじ穴に入りやすい配慮」「固定するパーツの仮置きができるスリットの設定」「電動ドライバーがモーターとなり、動力の理解が進む」といった、視覚に障がいがあっても組み立て遊びを楽しみながら、想像力や集中力、問題解決力を育む工夫がなされています。なお本商品は「日本おもちゃ大賞2017」の共遊玩具部門で大賞を受賞しました。

また、コミュニケーションの革新的なターニングポイントとなる“二語文”を追加したお子さまのことばの世界を広げる知育玩具『にほんご えいご 二語文も! アンパンマン おしゃべりいっぱい! ことばずかんSuperDX』は、「日本おもちゃ大賞2017」のエデュケーショナル・玩具部門で大賞を受賞。楽しみながらお子さまの発達を促す知育玩具の分野でも、新たな発想に基づく製品開発で高い評価を得ています。

※目や耳が不自由なお子さまもそうではないお子さまも、共に遊ぶことができるよう配慮されている玩具。特別に作られたものではなく、より多くのお子さまが遊べる玩具のことです。



©やなせたかし／
フレーベル館・TMS・NTV

お取引先とともに

CSR憲章

私たちは、お取引先と公平・公正な関係を保ち、互いに切磋琢磨し、良きパートナーとして、共に感動体験を創造し続けます。



セガサミーグループのアプローチ

お取引先は、仕事を通じて同じ目的を目指し、互いに切磋琢磨する良きパートナーであると考えます。清廉性、経済性、安全・品質、保守、技術、環境という多角的な視点で、お取引先を選定する基準や体制をグループ全体で整えると同時に、お取引先のご理解・ご協力を得ることで、相互信頼の上に公平・公正で良好な関係を築いていきます。そのために私たちは幅広く情報収集し、お取引先に伍した知識と判断力を持ち、お互いに適切な情報を交換し合いながら、共に感動体験を創造し続けます。

2016年度の主な取り組み

1. 公平・公正な取引
 - ・ 調達・購買におけるCSR活動の推進
 - ・ 下請法遵守体制の強化を目的とする研修を実施
(受講者数 エンタテインメントコンテンツ事業：14回・539名、遊技機事業：13回・167名)
 - ・ 適切な発注手続き遂行のためのシステム導入(サミー)
2. お取引先とのパートナーシップ
 - ・ セガ・インタラクティブのサプライヤーミーティング開催
(86社／146名のお取引先が参加)
 - ・ サミーの合同品質会議開催(のべ14社50名が参加)

VOICE

セガ・インタラクティブは自社工場を持たないファブレス企業であり、協力メーカー・工場などお取引先あつての会社です。2009年に稼働した調達関連情報(図面、見積、納期回答など)をお取引先と共有するポータルサイト(BATON)は、お取引先とのより円滑な情報共有を通じて連携を強化すべく、開発しました。これまで紙ベースでやり取りしていた文書を電子化することで事務作業を圧縮し、より本質的な業務に注力することで、より良い商品をつくり上げようという考えに基づいています。

稼働当初は、見積もり情報や注文残情報の電子化をメイン機能としてスタートし、年々扱える情報や機能を拡張していきました。今ではお取引先にも浸透し、調達業務に欠かせないシステムとなっています。現状、やりたかった機能はひと通り実装できたものと考えています



が、今後は改めてお取引先にアンケートなどを実施し、フィードバックをもとにさらなる改善に努めていきたいと思っています。

取引先との円滑な情報共有をサポートし、より良い商品づくりを目指しています



株式会社セガ・インタラクティブ
プロダクト業務推進部 課長
指田 智雄



公平・公正な取引

基本的な考え方

セガサミーグループでは、お取引先との公平・公正な関係を構築することをグループ行動規範に明記し、常に清廉・透明で公正な取引を徹底しています。社会的責任を果たすことはサプライチェーン全体の課題であるため、お取引先の選定や取引の継続については、信用度、技術力、開発力、価格、環境への対応力などを総合的に考慮し、公平かつ明確な基準で判断しています。また、お取引先との公平・公正な取引を実践するために、下請法遵守を推進する体制をグループ各社に設けて管理面の強化を図るとともに、関連部門や対象者向けの教育を継続的に実施しています。

お取引先への要請事項

「セガサミーグループ・サプライチェーンCSR調達ガイドブック」にそって、以下の項目に対する取り組みをお取引先へ要請しています。

- I. 労働
非差別・人権尊重、賃金、労働時間、団結権、児童労働禁止
- II. 環境
化学物質管理、環境影響の最小化、3R、廃棄物の適正処理と削減
- III. 安全衛生
職場の安全衛生対策、労働災害・労働疾病、健康管理
- IV. 品質・安全性
製品安全性の確保
- V. 公正取引・倫理
汚職・贈収賄、優越的地位乱用等の禁止、情報提供、知的財産、輸出管理
- VI. 情報セキュリティ



「セガサミーグループ・サプライチェーンCSR調達ガイドブック」

http://www.segasammy.co.jp/japanese/pr/commu/pdf/csr/20141101_supplychain_csr.pdf

公平・公正な取引の徹底

● 調達・購買におけるCSR 活動の推進

エンタテインメントコンテンツ事業では、グループ行動規範に基づき、儀礼廃止や金品の贈与、接待などを行わない旨をお取引先に書面で通知することで、取引関係の清廉性の維持を表明しています。また、社内規程に基づく継続的なお取引先の評価・選定および管理を複数部門による審査の上、行っています。アミューズメント機器分野においては、2011年度に「AM資材調達方針」を定めました。また、2015年度より「セガサミーグループ・サプライチェーンCSR調達ガイドブック」に対するご理解と実践をいただくことを取引の際の基本契

約書に盛り込んでいます。既存のお取引先についても契約書の更新をお願いしており、概ね75%で再締結が完了しています。すべてのお取引先に毎年、環境や品質などの取り組みについてのチェックシートを活用して自己点検することをお願いしているほか、主要なお取引先35社には1年に1度のペースで調達担当者が訪問し、監査を行っています。

遊技機事業では、「生産購買外注管理規定」、「取引先との取引及び口座管理規定」など各種規程に基づき、お取引先の評価・選定を行っています。新規お取引先においては、複数部門による審査を行い、相手先や外部調査機関から入手した情報をもとに適正性を判断し選定しています。また、新規取引開始の際は、「清廉性について」の書面をもとに直接、管理職より内容を説明しています。購買取引においては、サプライチェーン全体で「グループCSR憲章」、「グループ行動規範」に基づいた購買活動を推進しています。お取引先を対象に監査を実施し、「セガサミーグループ・サプライチェーンCSR調達ガイドブック」に対する理解と実践をお願いしています。2016年度は106社を対象に106回の継続監査を実施し、新たに2社に対して2回の監査を行いました。監査は20項目の設問を設定しており、毎年、評価ポイントを見直し、お取引先には必要に応じて是正対応をお願いしています。2016年度から、コンゴ民主共和国および周辺諸国で人権侵害、環境破壊、汚職など、不正に関わる組織の資金源となっている紛争鉱物（スズ、タンタル、タングステン、金）の使用の有無を監査の項目に追加しました。なお、調査の結果、使用の実態は確認されませんでした。

アミューズメント (AM) 資材調達方針

[基本姿勢]

1. 当社のAM資材調達活動にあたる全ての社員は、法令・社会規範を遵守し、「セガサミーグループ行動規範」及び各種社内規程に則り良識ある行動をします。
2. 当社のAM資材調達は清廉・公正を旨とし、お取引先に対して公平かつ誠実に対応いたします。
3. お取引先とは、公正な取引のもと信頼関係構築に努め、協力して技術・品質の向上、経済性・効率性を追求し、相互繁栄を目指します。

● 下請法遵守体制の強化

エンタテインメントコンテンツ事業では、下請法遵守を推進する委員会を2009年4月に設立し、下請法違反の防止や啓発を行うとともに、管理面の強化を図っています。セガホールディングス、セガ・インタラクティブ、セガゲームスでは、2016年度も業務上、下請取引が発生する部門を中心に14回(受講者539名)の説明会を実施し、社内イントラネット上の専用WEBサイトも活用して、必要な知識の習得や遵法意識の向上に努めました。

遊技機事業では、下請法の遵守をはじめとしたコンプライアンス体制の構築と運用を最重要事項と捉え、社内教育の強化を図っています。2016年度は、人事制度上の階層別教育研修プログラムに組み込み、167名が参加しました。このほか、購買部門の担当者から実務の現場で直面する下請法関連の質問を事前に募集し、弁護士が実務に即して解説するという、より実践的な勉強会を開催し、27名が参加しました。また、事務処理をシステム化することで、適切な発注手続きが遂行される体制の整備に努め、さらに開発部門においては、発注手続きの遅延が生じていないかをチェックするツールを内製で整備し、運用するなど、下請法遵守に向けた各種取り組みを行いました。

● お取引先さま相談窓口の設置

遊技機事業では、お取引先との相互信頼と清廉性に則った健全な取引を維持していくことを目的に、相談窓口として社内外に「サミー企業倫理ホットライン」を設置し、お取引先には、新規取引の際に制度のご説明を実施しています。また、事務所内のお取引先の目につく場所にポスターを掲示するなど、制度の周知と活用をお願いしています。なお、相談を受けた場合は、お取引先が不当な扱いを受けることが無いよう中立的な立場であるコーポレート本部が対応し、担当役員が責任を持って対処します。

● 児童労働・強制労働の禁止

エンタテインメントコンテンツ事業では、主に海外の委託工場などでの児童労働および強制労働の禁止についての取り組みを進めています。セガ・インタラクティブでは、プライズ商品に関し購買部門並びに品質管理部門が合同で2ヶ月に1回製造委託工場を訪問し、現場確認を含む工場チェックや第三者による工場監査を実施しています(サプライヤー監査カバー率92%)。セガトイズでは、児童労働および強制労働に関する法令遵守条項を盛り込んだ製造委託基本契約書の再締結の推進、購買部門や現地担当者の人権に関する研修の実施、第三者機関による労働基準遵守証明書の取得状況のチェックなどを実施しています(サプライヤー監査カバー率95%)。

● 英国現代奴隷法への対応

2015年3月に制定された英国現代奴隷法(Modern Slavery Act 2015)を受け、セガゲームスの英国子会社であるセガヨーロッパリミテッドは「奴隷と人身売買に関する声明」を2016年9月に発表しました。



奴隷と人身売買に関する声明

https://d2x7js8mtamps9.cloudfront.net/SOE-Modern_Slavery_Statement_September_2016.pdf

お取引先とのパートナーシップ

● サプライヤーとの連携

エンタテインメントコンテンツ事業のセガ・インタラクティブでは、開発方針、調達方針などを説明するサプライヤーミーティングを開催し、環境配慮や品質などへの取り組み課題を共有するなど、サプライヤーとの連携強化に努めています。2016年度は86社146名のお取引先にご参加いただきました。また、円滑な情報共有と双方向コミュニケーションを実現するサプライヤー向けポータルサイト「BATON」を開設し、およそ8割のサプライヤーにご利用いただいております。「BATON」は、災害発生時の被害情報をタイムリーに共有する機能や、製品含有化学物質の調査状況を共有する機能を追加(2016年度)するなど、今後もさらに機能を充実させるよう取り組んでいます。



2016年度サプライヤーミーティングの様子



● 生産パートナーの品質維持・向上

エンタテインメントコンテンツ事業のセガ・インタラクティブでは、生産パートナーとの協働を重視しています。サプライヤーとしての連携に加え、品質目標に基づく工場監査や組み立て指導などを定期的の実施しています。新規取引に際しては工場監査を義務づけ、継続的にお取引先にも年1回の工場監査を行っています。監査結果はお取引先に通知し、品質目標を下回る生産パートナーには、対策書の発行や品質会議の実施など改善を依頼しています。また、生産パートナーの自主的な品質管理体制の定着のために、生産部発行の「セガAM製品 検査員教本」で学習し試験に合格した者のみが自主監査できる検査員認定制度を設けています。同教本は中国語版も発行しています。

● アミューズメント施設運営パートナーとの協働

エンタテインメントコンテンツ事業では、アミューズメント業界の活性化を重点課題と位置づけ、施設運営パートナーへのきめ細やかなサポートや施策提案を強化しています。2016年度も『CHUNITHM』、『艦これアーケード』、『三国志大戦』などについて複数の販売プランをご用意することで、施設運営パートナーが複数のビジネスモデルの中から一番有効と思われるプランを選択できる新しい仕組みを導入しています。

また、『三国志大戦』では、アミューズメント施設に来たお客さまがスムーズにゲームを楽しんでいただけるように運営マニュアルを作成し、施設運営パートナーへ提案することで、アミューズメント業界のお客さま層の拡大を図っています。

● 販売店・パートナーメーカーとの協働

エンタテインメントコンテンツ事業のセガゲームスでは、家庭用ゲームソフトの魅力を直接お客さまにお伝えするため、販売店の店頭をタッチポイントとして、製品とお店の特性に合わせた店頭販促やイベントを企画して全国規模で展開しています。この販売網の強みを活かして営業・流通組織を持たないほかのゲームメーカーの製品も積極的に取り扱っています。また各メーカーをパートナーとして自社製品同様に細やかな販売サポートを行い、お客さまに優良なゲームソフトをお届けしています。

● パートナー企画会社との連携

エンタテインメントコンテンツ事業のセガトイズでは、商品開発の現場に常に新鮮なアイデアを取り込むべく、約70社のパートナー企画会社との連携を重視しています。2015年度より、パートナー企画会社から寄せられた企画を積極的に採用・商品化する取り組みを始めており、自社にパートナー企画部を設立することでパートナー企画会社とセガトイズとの連携強化に努めています。あわせて2015年より毎年「パートナー感謝の会」を開催し、その年最も貢献していただいたパートナー企画会社を表彰することで、今後の励みとしていただいています。今後もパートナー企画会社との連携を通じて、良質なおもちゃの開発につなげていきます。

● 海外パートナーとの協働

エンタテインメントコンテンツ事業が推進する海外展開においては、各国の法令遵守はもとより、現地の文化や慣習に精通する現地企業との良好なパートナーシップ構築に努めています。特にアミューズメント機器は販売後のメンテナンスやアフターフォローが重要なため、現地の流通業者との緊密な協力関係のもとでしっかりとしたサービス体制を築いています。近年はこの体制を活かし、自身が流通業者として自社の製品と同じように海外メーカーの機器の販売も行っています。

● 協力会社との合同品質会議

遊技機事業では、パチスロのユニット組み立てを担当する協力会社を対象に、年2回の合同品質会議を実施しています。会議では、不良率低減に向けた目標を設定し、不具合の共有や技術交流なども行っています。こうした取り組みを継続してきたことで不良率は大幅に減少し、最近では協力会社同士の連携も生まれています。今後もサプライチェーン全体で品質向上と業務改善に向けた連携を強化していきます。

● 合同品質会議の開催実績(2016年度)

		上期	下期	小計	合計
協力企業	のべ参加社数	7社	7社	14社	50名
	のべ参加人数	13名	13名	26名	
サミー	のべ参加人数	12名	12名	24名	



2016年度合同品質会議

株主・投資家とともに

CSR憲章

私たちは、グローバルな視点をもって事業を展開し、継続的な成長・企業価値の最大化を目指します。そして、適正な利益還元と適時的確な情報開示を通じ、透明な経営を図り、株主・社会の期待に応えます。



セガサミーグループのアプローチ

適時的確な経営情報の開示と適正な株主還元の実施を、経営の重要課題と位置づけます。斬新なアイデアに基づく製品開発、安定供給を可能にする生産体制、緻密なマーケティングに基づく販売計画と目先の利益にとらわれない営業姿勢、そして、透明性・信頼性の高い管理体制を整え、株主・投資家の皆さまの信頼に応えます。また、株主・投資家の皆さまとの様々な双方向コミュニケーション活動を通じ、経営情報を的確に伝達すると同時に、皆さまからのご意見を収集し、経営へのフィードバックを行います。

2016年度の主な取り組み

1. グループ構造改革を含む、当社の取り組みを積極的に開示
 URL アニュアルレポート
http://www.segasammy.co.jp/japanese/ir/library/printing_annual.html
2. 幅広い投資家層に向けた説明会などの実施（機関投資家向け事業戦略説明会・施設見学会、個人投資家向けイベントへの積極参加）
3. アニュアルレポートやIRサイトに対して、複数の第三者機関より評価を獲得

VOICE

株主や投資家の皆さまとの面談や、四半期ごとの決算資料の作成が主な業務となります。また社内に向けて、社外の意向を積極的に発信し、企業価値向上の意識を共有していくことも重要な仕事です。

IR担当として国内外の幅広い投資家に向けてアプローチしていくためには、セガサミーグループの事業や戦略、その背景への深い理解が必要であり、相手の知識や理解に応じて柔軟に説明を果たすコミュニケーション能力が欠かせません。英語ではまだまだ通訳を介する必要があることも多いので、日々勉強を重ねているところです。

私がIRという仕事と向き合う上で大切にしているのは、自分に正直に、誠実であること。信頼は一日では得られない一方、失うのは簡単です。常に情報開示の透明性を保ちながら、セガサミーグループの未来に



に向けた成長戦略について具体性をもって伝えることで、株主、投資家の皆さまの期待に応え続けていきたいです。

株主・投資家の期待に応えるべく常に誠実な対話を心がけています。



セガサミーホールディングス株式会社
財務経理本部 IR部
松本 尚久



適正な利益還元

利益配分に関する基本方針

セガサミーホールディングスは、株主の皆さまに対する利益還元を経営の重要課題として位置づけ、利益に応じた適正な配当を行うことを基本方針としています。安定的な配当を実現すべく、配当は中間および期末の年2回とし、2017年3月期は、中間配当は1株あたり20円、期末配当は1株あたり20円を実施しました。

株主・投資家への情報開示

IRポリシー

セガサミーホールディングスは、「IR・広報に関する方針」に基づき、金融商品取引法、その他法令および東京証券取引所の定める適時開示規則に沿って情報開示することはもちろん、経営方針や事業活動などの情報を幅広く提供することで、株主・投資家の皆さまからの一層の理解と信頼を得るための活動に努めています。また、法定開示、適時開示規則に該当しない任意開示情報についても、投資家の皆さまの投資判断に影響を与えうるものは積極的に情報開示しており、東京証券取引所が提供するTDnetを通じて開示するとともに、当社WEBサイトでも開示します。



セガサミーグループIR・広報に関する方針

http://www.segasammy.co.jp/japanese/pr/commu/csr/gr_policy.html

株主・投資家とのコミュニケーション

● 開かれた株主総会の実施

セガサミーホールディングスはより多くの株主の皆さまに定時株主総会に出席していただけるよう、集中日を避け、収容人数に配慮して会場を決定しています。2017年6月の株主総会には、205名の株主の皆さまにご出席いただきました。今後も、ご意見やご質問をいただきやすい仕組みづくり、スムーズな運営などを心がけていきます。

● IR活動

国内外における投資家向け説明会などの実施や、株主・投資家の皆さまからのお問い合わせにお応えするためのIRインフォメーションセンターを設置しています。また、国内外の機関投資家や証券アナリスト向け決算説明会を半期に1度開催し、四半期決算に関しては電話会議による説明会を実施しています。個人投資家の皆さまと積極的にコミュニケーションを図るために、個人投資家向けイベント等にも参加しています。



IRフォーラム2016東京

● IR活動実績

	2016年3月期	2017年3月期
決算説明会(四半期毎、電話会議を含む)	4回	4回
スモールミーティング	3回	1回
個別ミーティング(国内)	137回	149回
個別ミーティング(海外)	155回	148回
事業セグメント別説明会(施設見学会を含む)	2回	5回
海外ロードショー(カンファレンスを含む)	4回(北米1回、アジア2回、欧州1回)	3回(北米1回、アジア1回、欧州1回)
国内カンファレンス	5回	5回
個人投資家イベント	2回	4回

IR活動に対する外部評価

2016年度にセガサミーグループのIR活動が第三者機関から表彰されたものは右の通りです。



- 2016年度 日経アンニュアルリポートアワード 優秀賞受賞
日本経済新聞社(2017年2月)
- 2016年度 全上場企業ホームページ 充実度ランキング
最優秀サイト28位 日興アイ・アール株式会社(2016年12月2日)
- 2016年インターネットIR表彰 優秀賞受賞
大和インベスター・リレーションズ株式会社(2016年11月18日)
- Gomez IRサイト総合ランキング 2016 銀賞受賞
モーニングスター株式会社(2016年11月24日)



アニュアルレポート

http://www.segasammy.co.jp/japanese/ir/library/printing_annual.html

社員とともに

CSR憲章

社員一人ひとりの創造性とチャレンジ精神がグループ発展の源であり、最大の財産です。
私たちは、社員がもつ限りない可能性を
最大限発揮できる企業文化を育み、ともに成長していきます。



セガサミーグループのアプローチ

2014年8月、「グループ行動規範」をより具体的に示した「グループ・マネジメントポリシー」を制定しました。社員の業務指針にあたるこのポリシーには「人財に関する方針」、「労働安全衛生に関する方針」が含まれます。会社の最大の財産（人財）である社員が、自らの価値を高め、誇りとやりがいをもっていきいきと働ける快適で安全な職場環境をつくり、社員が自らの成長とグループの成長をあわせて実感できる企業風土を育んでいきます。

2016年度の主な取り組み

1. 長時間残業問題への取り組み
2013年からの取り組みにより、特に顕著であった開発、施設、コンテンツ制作事業などで長時間残業対象者（月80時間超）人数の8～9割レベルでの削減を達成
2. 働き方改革の推進
フレックスタイム制度導入などのワークライフバランス施策推進、グループ役員および管理職向け研修実施
3. オフィス集約の推進（2018年予定）
労働環境改善とグループシナジーの実現
4. 人事労務開示データの拡充

VOICE

私たちセガトイズは、日本玩具協会が主催する「日本おもちゃ大賞2017」において、二部門で大賞を受賞しました。エデュケーショナル・トイ部門で受賞した『にほんご えいご二語文も！アンパンマン おしゃべりいっぱい！ ことばずかんSuperDX』は、新たな試みとして二語文の要素を加えたところ、お子さまの言葉の自然な成長を願う多くの親御さんからご好評をいただきました。共遊玩具*部門で受賞した「アンパンマン くみたてDIY はしるぞっ！ ねじねじアンパンマンごう」は、次世代を担うすべてのお子さまに向けて、“自分の手を動かしてつくる達成感”をテーマに開発し、視覚障がいがあっても楽しく遊べる工夫が随所に凝らされています。

受賞は励みになりますが、これもチームメンバーやアイデアを形にしてくれる設計部門、商品の仕様やパッケージのあり方にまで厳しい目を向けてくれる品質保証部、そして周囲の多彩なプロフェッショナルやグループ会社の支えのおかげです。これからもチームワークを活かして、世界中のお子さまの笑顔を生み出すおもちゃをつくってきたいと思います。

セガトイズならではのチームワークで
日本おもちゃ大賞を受賞しました！



株式会社セガトイズ 企画本部 プロダクト企画部 主任
(右)池田 弥代

株式会社セガトイズ 企画本部 プロダクト企画部 主任
(中)加茂 真吾

株式会社セガトイズ 開発生産本部 品質保証部
(左)尾和 亜矢子



受賞した商品

©やなせたかし／フレーベル館・TMS・NTV

* 目や耳が不自由なお子さまもそうではないお子さまも、共に遊ぶことができるよう配慮されている玩具。特別に作られたものではなく、より多くのお子さまが遊べる玩具のことです。



人権の尊重

基本的な考え方

セガサミーグループでは、2014年に署名した国連グローバル・コンパクトで提唱されている「人権に関する原則」を基盤に置いた人財マネジメント（採用、配属、支援など）を行っています。また、「グループ行動規範」や「グループ・マネジメントポリシー（人財に関する方針）」で人権の尊重を明文化することにより、社員一人ひとりが人権に対する意識を高め、行動できるよう努めています。



グループ行動規範 http://www.segasammy.co.jp/japanese/pr/commu/csr/gr_csr.html



グループ・マネジメントポリシー http://www.segasammy.co.jp/japanese/pr/commu/csr/gr_policy.html

ハラスメント撲滅への取り組み

エンタテインメントコンテンツ事業のセガホールディングス、セガ・インタラクティブ、セガゲームスでは、すべての社員が気持ち良く働き、最大のパフォーマンスを発揮できるよう、ハラスメントの防止に注力しています。社内研修やイントラネット上で気軽にできるミニテスト、ケーススタディを利用し、ハラスメントに関する理解の徹底を図っています。また、役員および社員（受入出向者、アルバイト、派遣社員を含む）が不安や悩みを相談できる窓口を、相談内容によって選べるよう社内外に複数設置しています。

遊技機事業では、ハラスメントの撲滅を目的として、2016年度は人事制度上の階層別教育研修プログラムにてハラスメント防止研修を盛り込み、また、管理職の社員が集まってハラスメント防止に関する体験談や対処法などを話し合うスモールミーティングを14回開催しました。その結果、293名がハラスメント防止に関する研修に参加しました。さらに、ハラスメントに関する自己点検シートを全管理職に配布し、自らの行動を振り返る機会の創出や、全社員を対象にした全15回のeラーニングの実施を通じて意識を高めています。そして、2016年2月にはハラスメントを専門とする相談窓口を社内および社外の弁護士事務所に設置し、寄せられた相談内容に応じて丁寧かつ適切な対応が取られています。

人財の育成と評価

基本的な考え方

セガサミーグループでは、「グループ・マネジメントポリシー（人財に関する方針）」に基づき、公正な評価をするための仕組みを各社で整備しています。社員の育成については、階層や等級ごとに細分化された体系的な研修プログラム、全社員受講可能な教育環境の構築、資格や役割に応じたパフォーマンスの発揮を支援する各種仕組みなどにより、社員の個性とチャレンジを尊重し、能力と創造性を発揮して、自己実現を図ることができる風土づくりを推進しています。さらに、社員の優れた成果を称える社内表彰やスキルアップのための教育支援制度など、様々な形で社員のモチベーション向上と成長につながる制度を設けています。

人事制度

エンタテインメントコンテンツ事業のセガホールディングス、セガ・インタラクティブ、セガゲームスでは、社員の長期的なキャリア形成とプロ意識の向上のため、複線型人事制度を導入し、組織を率いていく「マネジメント職」と知識や技術を活かしていく「プロフェッショナル職」のコース選択を可能にしています。また、毎年「従業員満足度調査」を実施し、社員の課題認識や期待値・不満足度などを確認の上、各種人事施策へと展開しています。そのほかにも社内表彰など、社員一人ひとりがその力を存分に発揮し、何ごとにも挑戦しようとする自律した企業風土づくりに努めています。

遊技機事業では、社員全員がプロ意識を持ちチャレンジし続けるために、「マネジメントコース」と「プロフェッショナルコース」の自己選択型の制度を整備しています。これによって社員一人ひとりに求められる役割を明確化し、また成果貢献に応じた適正な処遇により社員のやる気と成果に報いることでパフォーマンスを最大限に引き出すことを目指しています。社内表彰制度も設けており、2016年度の会長賞・社長賞は13案件163名が表彰されました。なお、2016年度より社員のチャ

レンジをより賞賛するため「積極進取賞」を新設し、63名が表彰されました。将来的にチャレンジしたい仕事を申告できる自己申告制度の設置など、社員の育成とチャレンジ意欲を支援し、より適切な人財配置に役立てるとともに、すべての社員を対象に上司から評価のフィードバックを受ける面談を個別に年2回実施するなど、公正な評価の実現に努めています。社員は年に一度、職務経歴を社内のデータベースに登録することになっており、一人ひとりが定期的にキャリアの棚卸を行うことでキャリア形成に関する意識向上を図っています。また、数年に一度、社員満足度調査を実施しており、2015年度に行った調査の結果、「この会社の一員であることに誇りをもっている」と回答した社員は85.2%に上りました(回答率93%)。なお、過去5年の離職率は約2%と非常に低く、今後も社員がいきいきと働ける環境づくりを進めていきます。

教育・研修制度

エンタテインメントコンテンツ事業のセガホールディングス、セガ・インタラクティブ、セガゲームスでは、全社員共通の教育施策と、階層や職種、各部門の特性を反映した教育施策を組み合わせ、社員の能力開発とキャリア開発を推進しています。全社員に向けては、「eラーニング ライブラリ」システムを導入し、基礎的なスキル習得の場を提供しています。管理職層にはCSR研修を行い、社会に対する意識向上と組織をまたいだ交流を進めており、新入社員に対しては、約1ヶ月間の全社研修を充実させています。なお、それぞれの研修後にはアンケートを実施し、フォローアップと施策の改善に活用しています。

また、2014年度より新入社員一人ひとりに専任のコーチをつける「コーチ制度」を導入し、職場全体での新入社員の育成支援、コーチ経験による若手社員の育成強化も図っています。教育機会に対し主体性を発揮し成果を上げている社員には、さらなる教育支援も行っています。

遊技機事業では、「一人前としての能力を習得するまで、組織が責任を持って育成する」という人財マネジメントポリシーに基づき、階層や等級ごとに細分化した研修プログラムや、社員が自発的に参加できる選択型の研修プログラムを提供しています。新入社員研修については、ビジネスマナーやスキル研修のほかに、各部門における仕事の概要(お客さまに製品が届くまで)を理解するためのバリューチェーン研修を、約3ヶ月にわたって実施しています。これにより、配属された部署で各部門や組織の役割を認識した上での仕事の進め方の習得や、組織をまたいだコミュニケーションの向上をはじめ、様々な副次的な効果を狙っています。

● 階層別教育研修体系(遊技機事業)

階層	対象	研修内容	期間
新任管理職	新任管理職	新任管理職研修(マネジメントスキル・労務管理・メンタルヘルス・評価)	4日
管理職候補	管理職候補	次世代リーダー育成研修(業務遂行力、課題解決能力強化)	2日
リーダー	リーダー1年目～	キャリア研修(自己の棚卸・強みの再確認)	1日
		リーダーシップ啓発研修(対人影響力強化)	2日
中堅社員	中堅3年目～	キャリア研修(自己の棚卸・強みの再確認)	1日
		ロジカルシンキング研修(課題解決、対人折衝力強化)	2日
	中堅1年目	後輩指導力向上研修(傾聴力強化、指導方法学習)	3日
新入社員	入社3年目	プレゼンテーション研修(プレゼン技法、説得力強化)	3日
	入社1年後	新人フォロー研修	3日
	入社時	新入社員研修・バリューチェーン研修	4ヶ月

多様性の推進

基本的な考え方

セガサミーグループでは、「グループ行動規範」や「グループ・マネジメントポリシー(人財に関する方針)」に基づき、社員一人ひとりの個性とチャレンジを尊重し、個人の生活と仕事の調和に配慮したワークライフバランスなど柔軟な働き方を整備するとともに、多様化が急激に進むエンタテインメント業界の変化に対応するため、年齢や経験、性別、人種を越えた多様な人財の採用・登用を進めています。



各事業の取り組み

エンタテインメントコンテンツ事業のセガホールディングス、セガ・インタラクティブ、セガゲームスでは、性別・国籍などの区分けの無い採用を実施し、入社後には導入研修を行いスムーズな配属を支援しています。正社員においては、入社3ヶ月経過時点で勤務評定・人事面談を行い、配属先でのフォローに活用するほか、以降の採用の参考としています。

遊技機事業では、2014年度をキャリア開発施策元年として、具体的に「ジョブローテーション」、「最適配置」、「多様なキャリア形成の支援」、「自己申告制度」を4つの柱として施策を実行し、社員の多様性、社員一人ひとりの力量アップ、社員が成長する基盤の構築を進めています。2015年度はセガサミーグループのさらなるグローバル化を見据えた語学研修プログラムを導入したほか、50代の社員を対象に、長期的なキャリア開発を目指した研修を実施しました。2016年度は対象を30代、40代にも拡大し、それぞれの5年後、10年後を意識した未来への行動計画を形づくることを目的とした研修を計9回行うなど、年代別のキャリア形成を支援しています。

女性活躍推進

女性が十分に能力を発揮し、活躍できる環境を整備して企業の成長につなげるため、行動計画を策定して目標達成に向けて取り組んでいます。

エンタテインメントコンテンツ事業のセガホールディングス、セガゲームス、セガ・インタラクティブでは、2016年から2020年までの4年間で計画期間として、新卒採用における応募者の女性割合を30%以上とする目標を掲げ、性別にとらわれない公正な選考に向けたガイドラインの策定や、大学などと連携した女子学生向けセミナーを実施していきます。また、社員の育児休業後の復職定着率100%の実現を目標とし、休業中の方への情報提供などに取り組んでいきます。

遊技機事業では、2016年から2018年までの2年間で、育児休業中の社員を対象とした能力アップ支援を100%実施することを目標に掲げています。育児休業取得者のキャリアブランクを無くすため、休業中の能力開発やキャリア形成の施策を実施していきます。また2016年度は初の試みとして、女性社員のライフイベントを踏まえたキャリアデザインについて考える研修を実施しました。計2回行われた研修には47名の女性社員が参加するなど、女性社員が職場におけるキャリアを長期的に捉え、自らが望むワークスタイルを考えるきっかけづくりが始まっています。

障がい者雇用や定年退職者の再雇用制度

セガサミーグループ主要16社の平均障がい者雇用率は2017年3月時点で1.90%でした。遊技機事業では年2回公共職業安定所など主催の合同面接会に参加し、積極的な採用活動を推進、2016年3月末時点で法定雇用率を達成しています。

エンタテインメントコンテンツ事業では、障がいを持つ社員が能力を発揮するための職業環境整備や、職場を通じた定期面談などを実施しています。また、「高齢者雇用安定法」改正に伴い、遊技機事業並びにエンタテインメントコンテンツ事業で2006年の制度導入以降、希望者全員を定年退職後、最長5年間再雇用しています。

働きやすい職場環境の整備

基本的な考え方

セガサミーグループでは、異なるライフスタイルや家庭状況など多様な背景を持つ社員の能力を最大限に発揮させるため、各社でワークライフバランスを推進しています。

ワークライフバランスの推進

エンタテインメントコンテンツ事業では、グループとして取り組んでいる「働き方改革」の一環として、セガホールディングス、セガゲームス、セガ・インタラクティブの3社に、2017年7月より「フレックスタイム制度」を導入いたしました。従業員一人ひとりの時間管理意識を高め、労働生産性の向上およびワークライフバランスの充実を目指しています。また、仕事と育児の両立支援の一環として、育児相談窓口や掲示板「子育て広場」を設置し、情報交換の場を提供しているほか、全社

員に対して「マタニティハラスメント防止」に向けた教育カリキュラムの受講を義務づけています。このほか毎年度付与されるポイントで様々なサービスを利用できる「セガマイレージ制度」やセガサミーグループ保養所、財形貯蓄制度など、福利厚生制度の充実を図っています。

遊技機事業では、ワークライフバランスの推進を目的とし、有給休暇の取得促進と労働時間の削減に取り組んでいます。全社で、年次有給休暇を3日連続で取得し会社休日と合わせて最大5日間の連休を取得できる制度を導入しているほか、2017年度よりフレックスタイム制度を導入しました。また、サミー川越工場では、繁忙期を終えた時期に工場全体の休業日を設定し労働時間にメリハリをつけ、効率的で生産性の高い働き方の実現を目指しています。さらに、子育てや家族の介護が必要な社員が安心して働ける職場環境の整備にも積極的に取り組んでおり、次世代育成支援対策推進法に基づく基準適合一般事業主の認定を受けているほか、サミー川越工場においては、埼玉県の「多様な働き方実践企業」のゴールド認定*も受けており、働きやすい職場環境の整備に努めています。

* 認定要件6項目のうち、要件を満たす項目数によって「プラチナ」「ゴールド」「シルバー」に区分されます。



労働安全への取り組み

遊技機事業並びにエンタテインメントコンテンツ事業では、社員の健康と安全を守るため、安全衛生委員会を毎月開催しています。また、現場で事故が発生した場合には、直ちに原因追究をするとともに、改善を行い再発防止に努めています。

遊技機事業では、現場で発生する事故に対して、常に予防または改善することを徹底し事故件数をゼロにするための取り組みを進めています。サミー川越工場では、社員自らが身のまわりにひそむ危険要因をチェックし、都度改善する「6S*パトロール」活動やさらにセキュリティと節電の二つのSの観点を加えた「8Sパトロール」活動を行うなど、社員の健康と安全を守ることに力を注いでいます。2016年度は安全衛生委員会を通じて1年間をかけてリスクアセスメントを実施し、36項目のリスクを特定しました。2017年度以降、工場独自の「安全基準（ガイドライン）」を制定し、基準に照らしそれぞれのリスクへの対応を進めていく計画です。このほか、営業担当者は自動車の安全運転を心がけており、無事故無違反期間が1年以上の場合に取得できるSD (Safe Driver) カードを年に一回取得しています。

* 6S：整理・整頓・清掃・清潔・躰・セーフティー。

健康管理

エンタテインメントコンテンツ事業のセガホールディングス、セガ・インタラクティブ、セガゲームスでは、定期健康診断や人間ドック受診料補助、外部専門相談窓口（社員の家族も利用可）の設置、産業保健スタッフが常駐し、内科・精神科医、保健師、看護師への相談が可能な健康管理センターの設置などの支援体制を整えています。安全配慮の観点から会社独自の基準を設け、健康管理面談も拡充しています。また、月例の安全衛生委員会の議事録や各種関連情報を社内WEBサイトに掲載し、社員への周知に努めています。

遊技機事業では、健康管理の一環として、ストレスに対するセルフチェック機能向上のためWEBツールを活用する一方、新任管理職を対象にメンタルヘルスマネジメント研修を実施しています。長時間労働者に対しては、問診票配布、産業医面談を行うほか、所属長への労働時間削減への取り組みを促すことの徹底、休暇取得促進などを実施しています。勤務中いつでも産業医・看護師に相談できる体制も整備しているほか、タブレット端末を通じて産業医・看護師と面談できるシステムを導入するなど、遠隔地の事業所もきめこまかくフォローしています。

労使関係

エンタテインメントコンテンツ事業のセガホールディングス、セガ・インタラクティブ、セガゲームスでは「JAMセガ労働組合」「全日本金属情報機器労働組合東京地方本部大田地域支部セガグループ分会」が、またリゾート事業では「シーガイアユニオン」が労働組合として結成されています。労使相互で定期的な協議を行い、健全で良好な関係を構築しています。労働組合が結成されていない会社においても良好な労使関係を維持しています。2016年度に開催されたセガホールディングス、セガゲームス、セガ・インタラクティブ、セガ エンタテインメント、セガ・ロジスティクスサービスの5社合算の協議・交渉の回数は、43回でした。



人事・労務に関するデータ

対象範囲

- 2014年度：国内10社、2015年度：国内16社、2016年度：国内16社、海外2社（社員構成のみ）
- SSHD/SE/SGC SGN/DL/TMS/SAMMY/TOYS/SL/SHD/SGC CSOL/JMS/PSR/SIC/Jnext/BTF/SNW ※ 略称は、P.1参照
- ※ 2016年度のカバー率：売上比約9割、正規雇用人数比約7割

● 社員構成

	2016（国内16社）			2016（海外2社）		
	合計	男性	女性	合計	男性	女性
社員数（名）	7,032	5,090	1,942	—	—	—
正規雇用	5,414	4,485	929	198	133	65
非正規雇用	1,602	589	1,013	—	—	—
外国籍	76	54	22	—	—	—
平均年齢（歳）	38.9	40	36.2	38.4	38.3	38.9
平均勤続年数（年）	9.8	10.2	8.2	6.4	6.6	9

● 管理職・役員構成

	2014	2015	2016
女性管理職者数（名）	59	56	78
女性管理職比率（%）	5.7	5.4	6.7

● 海外子会社の状況

	2014	2015	2016
海外赴任者数（名）	32	47	24
海外子会社役員数（名） （取締役および執行役員）	145	149	148
日本からの派遣（名）	99	105	113
現地人財（名）	46	44	35

2016年度の内訳

	合計	課長職級	部長職級	執行役員級	役員級
役職者別人数（名）	1,200	780	322	60	38
男性	1,121	718	306	60	37
女性	79	62	16	0	1
女性比率（%）	6.6	7.9	5	0	2.6

● 採用

	2014			2015			2016		
	合計	男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性
新卒採用者数（名）	144	102	42	95	62	33	124	74	50
新入社員離職率（%）（入社3年以内）	32.6	—	—	30	—	—	24.9	—	—
中途採用者数（名）	288	221	67	200	159	41	212	161	51
定年後再雇用者数（名）	31	28	3	19	18	1	43	35	8

● 障がい者雇用

	2014	2015	2016
雇用人数（名）	156	173	168
雇用率（%）	1.80	1.95	1.90

● 両立支援制度利用実績

	2014			2015			2016		
	合計	男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性
産前・産後休業取得者数（名）	59	—	59	59	—	59	45	—	45
育児休業取得者数（名）	83	9	74	77	6	71	82	12	70
育児休業復職者数（名）	72	9	63	53	5	48	57	12	45
育児休業復職率（%）	—	100	97.9	—	83.3	88.9	—	100	64.3

※ 2016年度の男性の育児休業取得期間の内訳：
1週間以内 7人、1週間～1ヶ月 2人、1ヶ月以上 3人

● ワークライフバランス

	2014	2015	2016
月平均時間外労働時間（時間）	18.7	17.3	16.5
有給休暇取得日数（日）	8.5	8.2	7.8
有給休暇取得率（%）	47.0	45.6	45.4
ボランティア休暇のべ取得人数（名）	40	35	57
ボランティア休暇のべ取得日数（日）	108	74	92

● 労働安全衛生

	2014	2015	2016
労働災害発生件数（件）	71	90	77
休業災害	4	6	1
不休災害	67	84	76
労働災害度数率	0.5	0.6	0.8

※ 2014年度は通勤時の労働災害を含む。2015年度、2016年度は就業時のみのデータ

● 両立支援制度の例

育児

制度	法定	SSHD、SHD、サミー等
育児休業制度	子が1歳到達まで	・最長1歳6ヶ月から2歳6ヶ月までの範囲で
短時間勤務	3歳まで	・小学就学まで最長2時間/日 ・小学3年生まで退勤時間を最長1時間短縮可

介護

制度	法定	SSHD、セガHD、サミー等
介護休業制度	93日まで	・93営業日/名（介護短縮時間勤務含む）
介護短時間勤務	93日まで	・93営業日内で最長2時間/日
介護休暇	年5日まで（対象家族が2名以上の場合最長10日まで）	・年5日まで（対象家族が2名以上の場合最長10日まで） （保存有休の充当当可）

社会とともに【環境】

CSR憲章

私たちは、企業市民として社会を構成する一員であることを強く自覚し、事業活動等を通じた社会貢献、芸術・スポーツなどの文化の発展支援、地球環境保護への取り組みを、積極的かつ自主的にを行います。



セガサミーグループのアプローチ

温暖化、天然資源枯渇、廃棄物による汚染といった地球環境問題はますます深刻さを増しており、環境課題への対応は、すべての企業、個人が取り組むべき最優先事項となっています。セガサミーグループは、「社会の持続的発展」に向けて、環境に関する法令・規制を遵守することはもちろんのこと、省エネやリサイクル、消耗品使用の削減など環境に調和した事業活動に努めるなど環境にプラスになることを積み上げていきます。

2016年度の主な取り組み

1. 環境経営の推進：負荷防止・低減活動および主要な事業所や施設の環境基礎データの集計・把握・評価
2. 製品開発・設計における取り組み：環境配慮設計、サプライヤーへの化学物質適正管理の要請
パチンコ、パチスロに関しては鉛フリー100%を継続
3. 生産・輸送段階における取り組み：廃棄物のリサイクルや適正処理、容器包装の削減推進
4. 廃棄段階における取り組み：遊技機の下取り機リサイクル率97.21%、アミューズメント機は手分解による100%リサイクルを継続
5. 「黒松の森宣言」(宮崎県)、「セガの森」(長野県)における森づくり活動を継続、「シーガイアビーチクリーン in ーツ葉」(宮崎県)を実施

VOICE

遊技機業界の未来のためにリユース・リサイクルを広げたい！

2年前、サミーが独自のリユース・リサイクルシステムを立ち上げるにあたっては、ユーコーリプロさまにはいろいろとアドバイスをいただきました。急きょ、リユース部品が必要な時にも即座に対応していただいたり、非常に助かっています。今後サミーでは、遊技機の部品の共通化をさらに推進し、新台の開発を進めていきます。ユーコーリプロさまのような実績ある協力企業の力をお借りすることで、より効率的なリユース・リサイクルを目指していききたいと思います。



サミー株式会社 生産統括本部
生産企画本部 リユース推進部 部長
大坪 義典



環境省の広域認定制度を受けた「日工組遊技機回収システム」を利用する形で、2010年から使用済み遊技機のリユース・リサイクル事業を手がけています。様々な遊技機メーカーからの要望に応える形で使用済み遊技機から取り外した部品をメーカーに卸すというのが私たちの仕事です。将来的にはサミーさまのリユース・リサイクルの流れにより深くかわり、業界全体でのリユース推進の動きを加速するお手伝いをしたいと考えています。

株式会社ユーコーリプロ 営業部 部長
桜木 章浩





環境経営の推進

グループ環境マネジメント体制

セガサミーグループは、製品の製造から施設の運営まで多岐にわたる事業を展開しており、環境負荷を低減するためには、まず事業活動全体の環境影響を把握する必要があると考えています。そこで、主要な事業所や施設の環境基礎データを集計・把握し、環境負荷の推移を評価しています。今後も、照明や空調などの効率的な使用をはじめ、省エネ設備への切り替えなどを積極的に進めることで、電力使用量の削減に努めていきます。

グループの環境法令遵守の状況

セガサミーグループでは、環境関連法規はもとより、各事業会社が同意した業界団体などの指針を遵守し、環境汚染の防止に努めています。なお、2016年度も、環境関連法規違反および環境を汚染する事故はありませんでした。

製品開発・設計における取り組み

製品の環境配慮設計

エンタテインメントコンテンツ事業では、メダルゲーム機の「バベルのメダルタワー」において、従来製品「アラビアンジュエル」の消費電力と比較して55%削減するなど、省電力化への取り組みを継続しています。これらアミューズメント機器は、現行製品の部品を新製品へリユース可能な設計にし、廃棄物抑制に努めています。また、整備・点検手順をマニュアル化して店舗で共有し、製品の長寿命化につなげています。アミューズメント施設では、日常整備の徹底などで機器の長寿命化を図るとともに、廃棄機器についてはセガ・ロジスティクスサービスで手分解し、100%リサイクルしています。同社では敷地内に産業廃棄物中間処理業者を招致し、処理コスト低減と不法投棄を防止するリサイクルシステムを全国展開し、「埋立ゼロ・単純焼却ゼロ」を達成しています。

遊技機事業においては、下取りとして回収した遊技機内の部品のリユース性をさらに高めるため、設計・開発段階から構成している部品・基板・ユニットの共通化を図り、中期的にリユースできる部品点数の目標値を定め、拡大を進めています。パチスロでは現在の約15品目を50品目以上、パチンコでは現在の約10品目を15品目以上を目標としています。また、リユースできない部品については、さらに細かく分解・分別し、マテリアルとして再資源化しています。これらの取り組みを通じて、省エネや貴重な資源の有効活用、廃棄物の削減に努めています。業界内においては、他メーカーと連携し、部品・ユニットのプラットフォーム化を図り、業界全体での環境負荷低減に向けた取り組みを進めています。

また、ほぼすべての遊技機で、待機中のLED(装飾部等)の明るさを抑えるなどして消費電力を抑制するエコ機能を搭載しており、導入を開始した2014年度以前の機種に比べて消費電力の5%削減につなげています。また、お客さまご自身で音量や明るさを調節できる機能を追加し、このほか、パチンコ、パチスロにおいて鉛フリーはんだ部品使用率100%を達成しています。日本遊技機工業組合や日本電動式遊技機工業協同組合が業界レベルで環境負荷物質の使用状況の把握と低減をしようとする試みにも参加し、情報を共有しています。



バベルのメダルタワー
©SEGA



エコ機能を搭載した製品には、マークを表示しています。

生産・輸送・廃棄段階における取り組み

生産・輸送段階の取り組み

遊技機事業では、生産工程で発生する廃棄物のリサイクルや適正処理などに積極的に取り組むほか、部材並びにユニット品輸送時の通い箱の利用で、容器包装の削減に努めています。2012年9月に新工場の隣接地に新たな流通センターを設けたことで、散在していた部品保管倉庫機能を集約でき、輸送にかかわるエネルギーの削減につながっています。

また、サミー川越工場での新しい取り組みとして2016年6月に「節電エコプロジェクト」を立ち上げ、工場内の全部門よりメンバーを選出し毎月プロジェクト会議を開催しています。生産する製品の品質向上に努める一方、生産ラインにおける消費電力の過剰消費状態を検証したり、生産ライン外においても照明の間引きやタイマー設定の活用によるON-OFF、また館内を定期的に巡回し無駄な電力消費を徹底して削減する取り組みを進めました。その結果、2015年度比で使用電力が約10%削減となりました。

製品含有化学物質の適正管理

エンタテインメントコンテンツ事業のセガ・インタラクティブでは、「セガ機器・製品含有化学物質管理基準」に基づき、すべてのサプライヤーに対して「製品含有化学物質管理体制」の構築と運用を要請しています。サプライヤーには、含有化学物質管理体制の自己監査結果を報告していただくとともに、サプライヤーの製造拠点にも実際に訪問することで、体制の構築状況や運用状況を確認し、製品含有化学物質の適正管理に努めています。

その他の環境保全活動

オフィスにおける環境保全活動

グループ各社で通年実施している省エネ・省資源活動に加え、新型複合機への入れ替え、ネットワークの完全無線LAN化などの施策導入により、エネルギー使用量や紙資源の削減、業務の効率化と社員の環境保全意識向上にもつながりました。今後も各種システム導入の効果を調査し、さらなる改善を図っていきます。

グリーン電力証書システムの導入

2005年度より日本自然エネルギー株式会社と契約し、年間100万kWhの「グリーン電力証書(マイクロ水力、バイオマス)」を購入しています。さらに、横浜市神奈川区に設置の風力発電機(ハマウイング)を中心に行われる横浜市風力発電事業に賛同し、2007年4月より、「Y(ヨコハマ)-グリーンパートナー」として協賛しています。2016年度の実績は67,090kWhです。



日本自然エネルギー株式会社
<http://www.natural-e.co.jp/>

日本自然エネルギー株式会社が風力・バイオマス・小水力などによるグリーン電力(自然エネルギー)の利用を証するマーク。



シーガイア ビーチクリーンinーツ葉

フェニックス・シーガイア・リゾートでは、宮崎県指定天然記念物である、アカウミガメおよびその産卵地の保護を目的とした海岸清掃活動「シーガイア ビーチクリーンinーツ葉」を2015年より実施しています。毎年、地域住民の方や高等学校の生徒たちにボランティアとして約100名の参加をいただき、生まれた子ガメが海へ向かう際の障害となる、家庭ごみや流木などの回収を行っています。清掃前には宮崎市フェニックス自然動物園の出口 智久園長よりアカウミガメに関するお話をいただき、その生態を学ぶ場も設けています。



アカウミガメおよびその産卵地の保護を目的とした清掃活動



セガの森

CO₂の間接排出源となる電気を使用することが事業全体の前提となっているエンタテインメントコンテンツ事業では、この影響を事業活動の中で抑制するとともに、事業外スキームを活用したオフセットにより地球環境保護へ取り組んでいます。その活動の一つとして、2008年4月より10年契約で長野県南佐久郡南相木村と「森林の里親契約」を締結し、その対象となる民有林約3,633ヘクタール（東京ドーム約773個に相当）を「セガの森」と名付け、環境保全活動を展開しています。

「セガの森」の整備による2016年度CO₂吸収量1132.6t-CO₂は、平均的なアミューズメント施設1店舗のCO₂間接排出量の4年分相当をオフセットする規模です。また、地元の方々のご協力のもと、社員の地球環境保護に対する意識醸成の場としても活用しています。



2016年
「森林CO₂吸収量認定書」

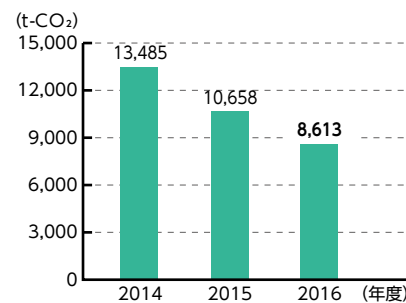
環境に関するデータ

対象範囲

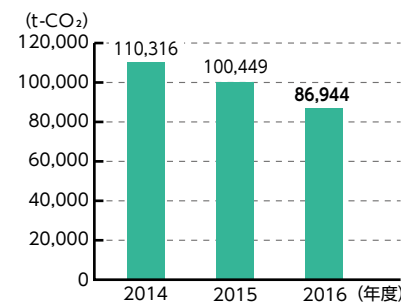
データ集計範囲 15社（2014年度、2015年度は（株）セガ・ライブクリエイションを含むため16社の数値）

● SSHD/SHD/SAMMY/TOYS/TMS/SNW/PSR/SE/SIC/SGC(CSOL+SGN)/ELEC/SLS/DL/MARZA/JMS ※略称は、P.1参照

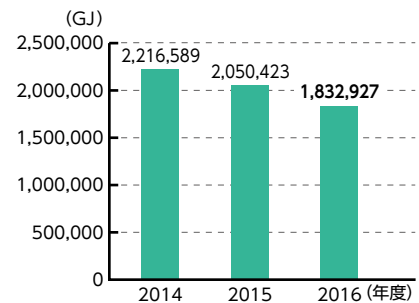
● CO₂排出量(スコープ1)



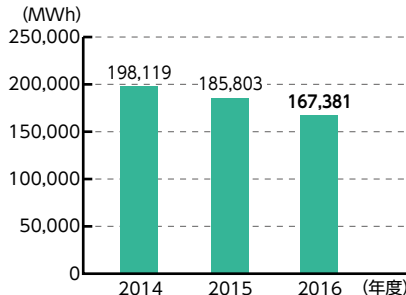
● CO₂排出量(スコープ2)



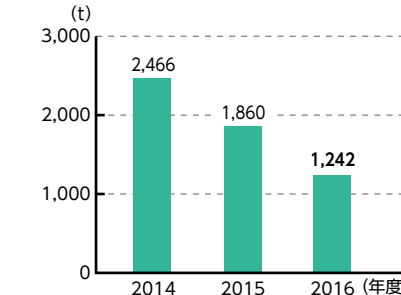
● 総エネルギー投入量



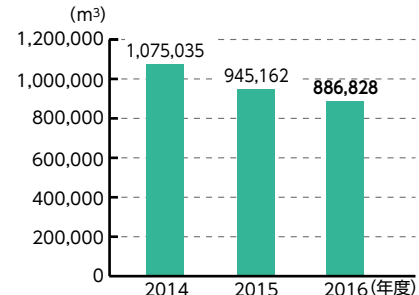
● 電力使用量



● 産業廃棄物排出量



● 水使用量



- ・集計データの一部に床面積による推計値を含みます。
- ・CO₂総排出量の減少は、燃料使用量及び電気使用量の削減が主要因です。
- ・購入電力のCO₂排出係数：各報告年度の前年度の電気事業者別の調整後排出係数を使用しています。

● サミー川越工場における環境配慮の状況

		2014年度 ^{※2}	2015年度	2016年度	備考
遊技機のリサイクル率の推移	リサイクル率	97.24%	97.28%	97.21%	パチンコ・パチスロ合算
環境配慮素材の利用	木材使用量	1,344t	1,077t	1,494t	
	うちPEFC認証木材 ^{※1}	66t (4.9%)	45t (4.2%)	84t (5.6%)	

・接着剤は、水系接着剤を含めて川越工場では使用しておりません。

※1 PEFC認証木材：PEFC森林認証プログラム(Programme for the Endorsement of Forest Certification Schemes)による認証木材。第三者機関より持続可能な森林管理の認証を受けた森林より適切に調達された木材。PEFC認証木材が使用できる製品の生産量が減少したことにより、使用量が減少しました。

※2 精度向上のため、数値を過及び修正しています。

社会とともに【社会貢献】

CSR憲章

私たちは、企業市民として社会を構成する一員であることを強く自覚し、事業活動等を通じた社会貢献、芸術・スポーツなどの文化の発展支援、地球環境保護への取り組みを、積極的かつ自主的にを行います。



セガサミーグループのアプローチ

セガサミーグループは、良き企業市民として社会に貢献する必要性を強く認識しています。本業のエンタテインメントを通じて豊かな社会の創出に貢献していくことはもとより、グループ各社、各事業所などにおいて、地域社会の皆さまと積極的に対話しながら、社会への貢献を進めていきます。また、こうした活動を通じて、社員一人ひとりの成長とグループとして強くなるためのベクトル合わせにもつなげていきます。

2016年度の主な取り組み

1. 地域活動：「子ども神輿協力」「小江戸川越ハーフマラソン協賛」「佐倉モノづくりFesta2016 出展」などの地域のための支援活動を実施
2. 社会支援：「絵本を届ける運動」「ショールーム開放」「パラ・ノルディックスキー日本チームの継続的支援」「玩具の寄贈と玩具除菌」などの社会貢献を実施
3. スポーツ・芸術・文化支援：「東京ジャズフェスティバル協賛」「学童軟式野球大会協力」「社会人野球、野球教室」開催などで各分野の支援活動を実施、「ジュニアスポーツフェスティバル」開催

「出前授業」を通じて、
ゲームづくりの楽しさを伝えたい



株式会社セガ・インタラクティブ 第一研究開発本部 技術統括室
ソフトシステムセクション セクションマネージャー 兼
人材開発サポートチーム

(右) 矢儀 篤樹

株式会社セガ・インタラクティブ 第一研究開発本部 技術統括室
チーフプログラマー

(左) 村上 健治

VOICE

2013年に神奈川工科大学で行われたゲーム制作イベントにゲスト審査員として呼ばれたのがきっかけとなり、全国の大学・専門学校に向けてゲーム業界の魅力を伝える「出前授業」をボランティアとして始めました。ゲーム開発の実態、アイデアの育て方、作品のレビュー、進路相談にいたるまで、扱うテーマは様々ですが、未来のゲーム業界を担うかもしれない若者たちに、ゲームづくりの楽しさを伝える目的で、これまでに20校以上の現場に出向いてきました。若者たちの純粋な思いや新鮮な発想に触れることで、私たち自身が刺激を受けることも多く、のべ50人以上の社員がかかわってくれました。

あくまでもボランティア活動という形ではありますが、セガの看板を背負って将来のゲーム業界の発展に貢献したいという思いで続けてきました。普段はライバルである他社の有志の協力も得ながら、より大きな取り組みにつなげていくことが、これからの目標です。



若者にゲーム業界の魅力を伝える



地域活動

地域の皆さまとの交流

エンタテインメントコンテンツ事業では、毎年7月に行われる羽田神社夏季例大祭へ寄付を行うとともに、「子ども神輿」の休憩所を事業所内に設け、飲料を提供しています。また、町内会主導で行われる月例のごみ拾い「街並み清掃活動」へも積極的に参加しています。様々な場面で今後も地域の皆さまとの交流を続けていきます。



「子ども神輿」をかつぐ子どもたち

「小江戸川越ハーフマラソン」2016への特別協賛

遊技機事業では、川越工場の地元で毎年開催される「小江戸川越ハーフマラソン」に特別協賛しています。2016年11月の大会は天候にも恵まれ、9,843名のランナーが出場しました。里見社長はじめサミーおよびグループ社員・お取引先77名がランナーとして大会に参加し、サミー社員による給水ボランティアも行いました。



「小江戸川越ハーフマラソン」

八王子市内の保育園、児童養護施設にクリスマスプレゼントを届ける

セガサミー野球部は、2010年より地域貢献活動の一環として、活動拠点のある八王子市内の児童養護施設を訪れ、クリスマス会を開いています。7回目の2016年は、12月20日と22日の2日間、野球部を代表して選手計8名とマスコット「セガサミー・ルーター」が各施設を訪問。セガサミーグループ製品をプレゼントした他、キャッチボールなどで子供たちと交流し楽しい時間を共にしました。クリスマス会に参加した喜多選手は「子供たちとの交流を通じて心が癒され、私たちも元気をもらえました。2017年は、都市対抗野球本大会で勝利し、子供たちと歓喜の瞬間を共有できるよう日々精進します」と感想を話していました。セガサミー野球部は、これからも地域に根差したチームを目指して、活動してまいります。



2016年クリスマス。セガサミー・ルーターとともに施設にプレゼントを届けた選手たち

「佐倉市産業まつり 佐倉モノづくりFesta2017」へ出展

セガ・ロジスティクスサービスでは、事業所がある千葉県佐倉市が主催する「佐倉モノづくりFesta」に地域貢献の一環として2012年より参加しています。2017年は5月20・21日に開催され、両日で14,000人来場する中、最新のUFOキャッチャーを出展し、大勢の方々に喜んでいただきました。これからも地域社会の一員として活動していきます。



出展ブースの様子

学生たちの社会体験学習事前教育の支援

フェニックス・リゾートでは、地域の中学、高校、大学に協力し、学生たちの社会体験学習事前教育の一環として、マナーや意識の向上のため、マナー講座（出前授業）やバリアフリー見学会（シーガイア内）を実施しているほか、警察署や病院へも社員が出向き、「接遇術を身につける講座」を開催するなど、地域の成長発展に積極的に参加しています。



学生たちへの出前授業

社会支援

絵本を届ける運動

紛争地域などに暮らす子どもたちへのエンタテインメント提供を目的として、公益社団法人シャンティ国際ボランティア会の「絵本を届ける運動」に参加しています。オフィスや家にある不用品を回収し、その売却金で絵本を購入、現地語訳のシールを貼り、各地へ送り出すまでの一連の活動を、グループ19社の社員で分担。活動開始から9年で1,716冊の絵本を現地へ送り出すことができました。エンタテインメントを通して、すべての子どもたちに生きる力や夢を持つことができる世界が訪れることを祈り、これからも同活動を行ってまいります。



現地語シールを絵本に貼る役員

地域の高齢者の方をショールームにご招待

現在5つの高齢者施設から月1～2回のペースで参加者にお越しいただき、当社の遊技機を楽しんでいただいています。この活動は社員からの発案で2006年6月27日に始まり、本社における活動としては通算で231回(2017年3月現在)となっており、毎回ボランティアとして社員も参加しています。たくさんの「楽しかった」「ありがとう」のために、そして招く側である当社の社員にとってもエンタテインメントの社会的価値を再認識できる機会として、今後も続けていきます。



地域の高齢者を大勢招いたショールーム

パラ・ノルディックスキー日本チームの継続的支援

セガサミーグループは、特定非営利活動法人日本障害者スキー連盟のメンバーを母体とするパラ・ノルディックスキー日本チームを継続的に支援しています。同連盟は、障がい者およびその関係者がクロスカントリースキーやバイアスロンに親しみ、競技力の向上と同競技の振興と普及を図ることを目的とする組織です。「障害のある方たちに、クロスカントリースキーやバイアスロンの楽しさを知っていただき、健康な体づくりを目指してほしい。パラリンピックなどを目指す障害のある青少年に夢を与えたい」という思いで活動する同チームにこれからも支援を続けます。



パラ・ノルディックスキー日本チーム

NPOとの協働による玩具の寄贈と玩具除菌活動

「本業を活用し少しでも社会課題の解消に」と考え、当社グループ内事業会社のおもちゃや子ども用グッズをNPOなどの非営利団体に寄贈しています。2009年度より毎年継続実施し8回目を迎えたこの取り組みは当社グループが、認定特定非営利法人日本NPOセンターとともに非営利団体を選定し寄贈しています。2016年度は、小児がんや小児の難病治療の家族の滞在支援をするNPOである認定NPO法人ファミリーハウスさまへ、セガトイズの商品約50点を寄贈しました。

また、当社グループの社員が宿泊施設を定期的に訪問し、一般のボランティアの方々と一緒に玩具やぬいぐるみの除菌・修繕作業を行っています。



ファミリーハウスさまからの寄附報告書



スポーツ・芸能・文化支援

「TOKYO JAZZ FESTIVAL」への特別協賛

セガサミーグループは、芸術・文化支援活動の一環として、世界中から一流のジャズアーティストが一堂に会する国内最大級のイベント「東京ジャズフェスティバル」への特別協賛を毎年継続しています。東京JAZZは「国境を越えて、世代を超えて」をテーマに、2002年から毎年開催され、良質な都市型音楽フェスティバルとして高い評価を得てきました。2017年も本イベントへの協賛活動を通じて、日本の音楽文化の充実・発展に寄与いたします。



TOKYO JAZZ FESTIVAL
@東京国際フォーラム

「セガサミーカップ学童軟式野球大会」への特別協賛

セガサミーグループは、東京都学童野球のレベルアップという大会の目的に賛同し、「セガサミーカップ学童軟式野球大会」に特別協賛しています。八王子市のセガサミー野球場にて8度目の開催となった「セガサミーカップ学童軟式野球大会」は、昨年比8チーム増の16チームが出場。2016年11月の開催にもかかわらず、準決勝・決勝戦当日には積雪がありましたが、その雪を溶かすほどの熱い戦いが繰り広げられました。

また、大会の組み合わせ抽選日には、選手、指導者、保護者を対象に「スポーツ栄養学」の講習会を開催。技術面だけでなく、食育をはじめとした身体づくりにも目を向けて、子どもたちの成長に貢献する取り組みを行っています。



「セガサミーカップ学童軟式野球大会」
優勝チーム

「長嶋茂雄 INVITATIONAL セガサミーカップゴルフトーナメント／ジュニアスポーツフェスティバル」の開催

「長嶋茂雄INVITATIONAL セガサミーカップゴルフトーナメント」開催地である千歳市、隣接の恵庭市、苫小牧市の小中学生を対象に、一流の講師が直接指導を行うスポーツ教室「ジュニアスポーツフェスティバル」を2017年5、6月に開催いたしました。

水泳では、リオ五輪競泳メダリストの松田丈志氏（セガサミー所属）が、「感謝の気持ちを忘れずに！」と、ご自身のメンタルマネジメントを伝授。未来のオリンピック育成を見据えた指導をしていただきました。このほか、計12競技の現役選手・元アスリートの協力で、1,500名を超える子どもたちに競技の楽しさを伝えることができました。

また、千歳市での開催が10回目であることから、同市主催の記念イベントも同時開催されました。このイベントがさらに浸透し、地元にも愛されるものとなるよう、取り組みを続けてまいります。



水泳教室の参加者たち

第三者意見



認定特定非営利活動法人
環境経営学会
理事・経営診断推進委員長

鈴木 道彦氏

里見治紀新社長が2017年5月に発表された2020年3月期にゴールを定めた「Road To 2020」の掲載は、今回の大きなインパクトのある内容と高く評価します。2004年にホールディング制とし、幅の広い事業を展開するエンタテインメント企業グループですが、多種の専門職の人材を抱え、多様なグループ会社を包括した持株会社であるがゆえに、ガバナンスに力を入れている表現が多く見受けられます。しかしながら広く系統的なガバナンス体制になっているとは言い難い状況です。「Road To 2020」を展開する上で、今年度制定した「2017セガサミーミッションピラミッド」の浸透とESGへの展開を図り、全グループ会社、全社員へのスピード感を持った具体的な施策の落とし込みを期待します。そして、今はその過渡期でありますので、1年後のCSRレポートの発行を待たずに、WEBなどで逐次、早く公開されることをお勧めします。

ステークホルダーを重要事項と位置づけし、お客さま、お取引先、株主・投資家、社員、社会の5つを特定し、本レポートでも多くのページを割いて取り組みを紹介しています。マルチステークホルダーとのコミュニケーションには多方位的な配慮がなされており、情報開示の方針は評価できる水準にあると考えられます。特に、お客さまの声に応える仕組みなど、優れた責任履行の体制を確立していると思います。ただ、それらの取り組みの有効性を上げるためには、パフォーマンス主体の表記ではなく、PDCAを確実に回している表現が継続的に記載されることを望みます。

環境に関しては、2015年12月に気候変動に関する「パリ協定」(COP21)が採択され、世界のCO₂削減計画が急速に進んでいます。他の業界に先んじるように、広く情報収集をしながらCO₂削減への先進的な方針と情報の開示を期待します。

貴社の製品サービスは社会の倫理性に関連していますが、のめりこみ問題の軽減・解消については、貴社が真正面から取り組まれている表現が記載されています。持続可能な社会の実現のためには乗り越えるべき最重要課題として、製品サービスの開発に関して、高い倫理基準に基づいた貴社独自の基準策定とその透明性の向上に対してさらなる工夫を期待します。

欧米では、ESG投資が拡大しつつあり、日本では年金積立金管理運用独立行政法人(GPIF)や企業年金を運用している信託銀行、生命保険会社などのESG投資の比率が徐々に高まっています。その評価材料の中心が企業のアニュアルレポート、CSRレポート及びWEB上での情報です。

これらのESG投資に評価されるようなインパクトのある内容で、かつ十分な量の情報を公開されることを望みます。

第三者意見をいただいて

2017年4月の新経営体制に伴いグループミッションを頂点としたグループおよび各社ミッションピラミッドの形成、「Road To 2020」の策定とグループ各社・各社員のベクトルを合わせ、信頼度を強化し、感動体験を創造し続けることで社会に対する貢献をするという方向性がより明確になってまいりました。また働き方改革に関しましては、特に長時間残業の多かった会社や事業について2013年より順次重点的な取り組みを行い、月80時間超の残業がある対象者数を8~9割レベルで削減することができました。各事業現場の役職員の丸となった成果であると感じております。今後は新しい指針に対応できるようさらなる対応をするとともに法令遵守を超えて、多様な人財が活躍する場を実現するよう働き方改革を進めてまいります。2018年に予定しておりますオフィス集約も働く環境の整備を大きく推進するとともにグループシナジーの拡大にもつながると考えています。

また今年度はCSR経営の実践状況をサステナブル経営診断として外部評価を受け(P.14)、また初めてステークホルダーダイアログを行いました。今後の体制整備につなげていきたいと考えております。

鈴木氏からのご意見にあるようにリユース・リサイクル促進、施設や製品のLED化促進などによりCO₂排出量の削減、産業廃棄物の削減などは着実に進んではおりますが、目標設定をし、各事業や現場でPDCAサイクルを回していく段階にどう進めるかは、当グループの課題であると認識しております。ESGに関する情報開示や取り組みなどWEBなどでより早くその方向性や活動状況を公開してまいります。



セガサミー
ホールディングス株式会社
執行役員
グループCSR推進室長

石倉 博



セガサミーホールディングス株式会社

グループCSR推進室

〒105-0021 東京都港区東新橋一丁目9番2号 汐留住友ビル21階

TEL : 03-6215-9055

URL : <http://www.segasammy.co.jp>

アニュアルレポートとの関連性

アニュアルレポートでは財務情報を中心に報告し、CSRレポートでは非財務情報を中心に報告しています。CSRレポートに掲載されていない財務情報の詳細については、ホールディングスWEBサイトIRページをご覧ください。

WEB <http://www.segasammy.co.jp/japanese/ir/index.html>

免責事項

本レポートには、セガサミーグループの過去と現在の事実だけでなく、社会情勢に関する予想や発行日時点での経営計画や見通し、将来予測が含まれています。これらの予想・予測は、記述した時点で入手できた情報に基づいた仮定ないし判断であり、諸条件の変化によって、将来の社会情勢や事業活動の結果が異なったものとなる可能性があります。読者の皆さまには、ご了承くださいますようお願い申し上げます。



適切に管理された森林からの木材製品であることを証明する、FSC® 森林認証紙を使用しています。



だれにも読みやすい、ユニバーサルデザインフォントを使用しています。